



別冊

松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画

①資料編

野外展示「竪穴住居」

目 次

1. 沿革	1
2. 建築の概要	4
3. 松戸市立博物館協議会	5
4. 松戸市立博物館基本構想・基本計画庁内ワーキング設置要綱	6
5. 計画策定までの経過	
(1) 博物館協議会での協議経過	7
(2) 計画素案（平成 28 年 2 月作成）	8
(3) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問） （平成 29 年 10 月）	23
(4) 松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申） （平成 31 年 3 月）	25
(5) 常設展示利用者調査（令和 3 年 4 月実施）	33

1. 沿革

年月日	事項
昭和 39 年 12 月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50 m ²)
昭和 46 年 4 月	(財)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47 m ²)
昭和 49 年 11 月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330 m ²)
昭和 56 年 3 月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
昭和 56 年 5 月	松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和 58 年 8 月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和 59 年 4 月	社会教育部内に美術館準備室設置
昭和 59 年 6 月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足【委員 10 名】
昭和 59 年 11 月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和 60 年 3 月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和 63 年 9 月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置【委員 15 名】
昭和 63 年 10 月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
昭和 63 年 11 月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足【委員 10 名】
昭和 63 年 12 月	建設用地を総合公園「21 世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足【委員8名】
平成元年 3 月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
平成元年 4 月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
平成元年 8 月	総合公園「21 世紀の森と広場」内に建設位置決定
平成元年 11 月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足【委員8名】 展示基本設計を(株)乃村工藝社に委託
平成元年 12 月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成 2 年 2 月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
平成 2 年 3 月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
平成 2 年 6 月	展示実施設計を(株)乃村工藝社に委託
平成 2 年 9 月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成 3 年 9 月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成 4 年 1 月	外構工事着手
平成 4 年 3 月	植栽工事着手
平成 4 年 4 月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
平成 4 年 6 月	建築工事、外構工事竣工
平成 4 年 7 月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
平成 4 年 9 月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)

年月日	事項
平成4年12月	野外展示工事竣工
平成5年1月	展示工事竣工
平成5年3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
平成5年4月	松戸市立博物館開館(29日) 初代岩崎卓也館長就任
平成5年10月	松戸市立博物館協議会発足【委員10名】
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
平成6年6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員 平成7年6月9日登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足【委員5名】
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで)を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根木内歴史公園開園記念 企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	初代岩崎卓也館長退任
平成20年4月	2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
平成20年10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで)東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
平成23年4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	2代関根孝夫館長退任
平成24年4月	3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史-市内の遺跡を再検討-」展を実施
平成26年12月	松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定(平成27年4月1日施行)

年月日	事項
平成 27 年 2 月	松戸市史上巻(改訂版)『原始・古代・中世』を刊行
平成 30 年 4 月	松戸市立博物館管理運営規則第 5 条の観覧料免除等の(1)「大学生及び大学生以下の者を引率する者」を追加、(3)「身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」の市内要件を撤廃
平成 30 年 9 月	松戸市制施行 75 周年・松戸市立博物館開館 25 周年記念特別展示(期間 9 月 22 日から 11 月 25 日まで)「ガンダーラー仏教文化の姿と形」展を開催
平成 31 年 3 月	松戸市制施行 75 周年・松戸市立博物館開館 25 周年企画展示(期間:3 月 9 日から 3 月 24 日まで)「日本の太鼓・世界の太鼓」展を開催。21 世紀の森と広場に所在する 21 世紀の森と広場公園管理事務所、森のホール 21、および当館による初の連携企画
令和元年 10 月	消費税率引き上げに伴う観覧料改定
令和 2 年 3 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の展示を休止(3 月 3 日~31 日)
令和 2 年 4 月	新型コロナウイルス感染症の拡大で、緊急事態宣言が千葉県を含む 1 都 1 府 5 県に出される。(4 月 7 日~5 月 25 日)。これに伴い 4 月 8 日~5 月 31 日の間、臨時休館となる。

2. 建築の概要

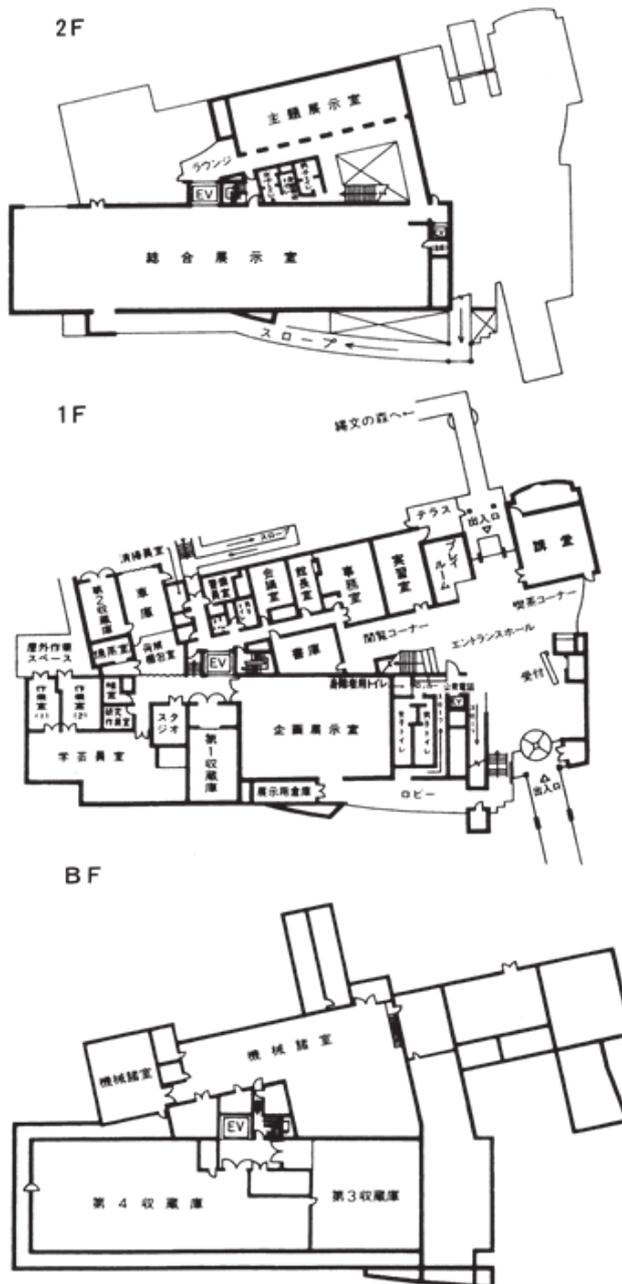
1. 敷地面積: 7,795.81 m²
2. 建築面積: 2,709.92 m²
3. 延床面積: 5,446.73 m²
1階: 2,515.17 m² / 2階: 1,542.92 m² / 地下1階: 1,388.64 m²
4. 階数 地下1階・地上2階
5. 構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC 梁構造)
6. 高さ 14.4m

※博物館周辺環境との調和をはかるため高さを 15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても 10m以内 に制限して建設を行った。

● 各室の面積

区分	室名	室数	階層	面積 (m ²)
展示部門	総合展示室	1	2	873.4
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.2
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸庫	1	1	31.32
	小計			1,070.21
	教育普及部門	講堂	1	1
実習室		1	1	70.97
プレイルーム		1	1	51.6
閲覧コーナー		—	1	78.8
小計				326.25
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.3
	研究作業室	1	1	16.99
	小計			300.97
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	—	B1	575.49
	管理共有部分	—	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	—	1	333.12
	喫茶コーナー	—	1	56.29
	ロビー	—	1	151.98
	スロープ	—	—	196.91
	共有部分	—	—	379.53
	小計			1,117.83
合計			5,446.73	

[各階の平面図]



3.松戸市立博物館協議会

松戸市立博物館条例で、以下のように定められています。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

松戸市立博物館協議会委員

令和5年3月31日時点

	委員区分	委員名	役職等
1	1号委員 学校教育関係者	にしごおり やすき 西郡 泰樹	松戸市立小金小学校校長
2	1号委員 学校教育関係者	おおにし かずき 大西 一樹	松戸市立馬橋北小学校教諭
3	2号委員 社会教育関係者	やまぐち えりこ 山口 恵理子	北部幼稚園副園長
4	2号委員 社会教育関係者	おかだ けいじ 岡田 啓峙	松戸市立博物館友の会相談役
5	2号委員 社会教育関係者	たにしか えいいち 谷鹿 栄一	千葉県立美術館 主任上席研究員
6	3号委員 家庭教育の向上に資する活動を行う者	ひやくた きよみ 百田 清美	NPO 法人ねばあらんど理事長
7	4号委員 学識経験者(建築史学)	はましん まさし 濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授
8	4号委員 学識経験者(近世史)	さとう たかゆき 佐藤 孝之	東京大学名誉教授
9	4号委員 学識経験者(民俗学)	こじま たかお 小島 孝夫	成城大学教授
10	4号委員 学識経験者(考古学)	ひだか しん 日高 慎	東京学芸大学教授

任期:令和3年10月1日から令和5年9月30日まで

4.松戸市立博物館基本構想・基本計画庁内ワーキング設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、博物館リニューアル基本構想・基本計画に向けたワーキングチーム（以下「ワーキングチーム」という。）を設置し、策定に向けて調査・検討及び協議を行うことを目的とする。

(所掌事項)

第2条 ワーキングチームは、博物館リニューアル基本構想・基本計画策定に向けた調査・検討及び協議をする

2 事務局長は、必要に応じ第3条別表に定める以外の者の出席を求め意見を聞くことができる。

3 その他第1条の目的を達成するための必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 ワーキングチームは、別表に掲げる構成員をもって組織する。構成員は、第1条の目的が達成される時まで、選任される。変更する場合は、変更選任届を提出する。

2 ワーキングチームは、第1条の目的が達成されたときをもって解散する。

(事務局長)

第4条 ワーキングチームには事務局長を1名置き、事務局長には博物館次長を充てる。

(会議)

第5条 ワーキングの会議は、必要に応じて事務局長が招集する。

(事務局)

第6条 ワーキングチームの事務局は、博物館が行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要事項は、事務局長が定める。

附 則(期間)

この要綱は、令和元年8月1日から令和4年3月31日まで施行する。

別表(第2条関係)

ワーキング チーム 構成員	経済部	文化観光国際課
	子ども部	子どもわかもの課
	街づくり部	21世紀の森と広場管理事務所
	生涯学習部	社会教育課
		生涯学習推進課
学校教育部	指導課	
事務局	博物館	

5. 計画策定までの経過

5-(1)博物館協議会での協議経過

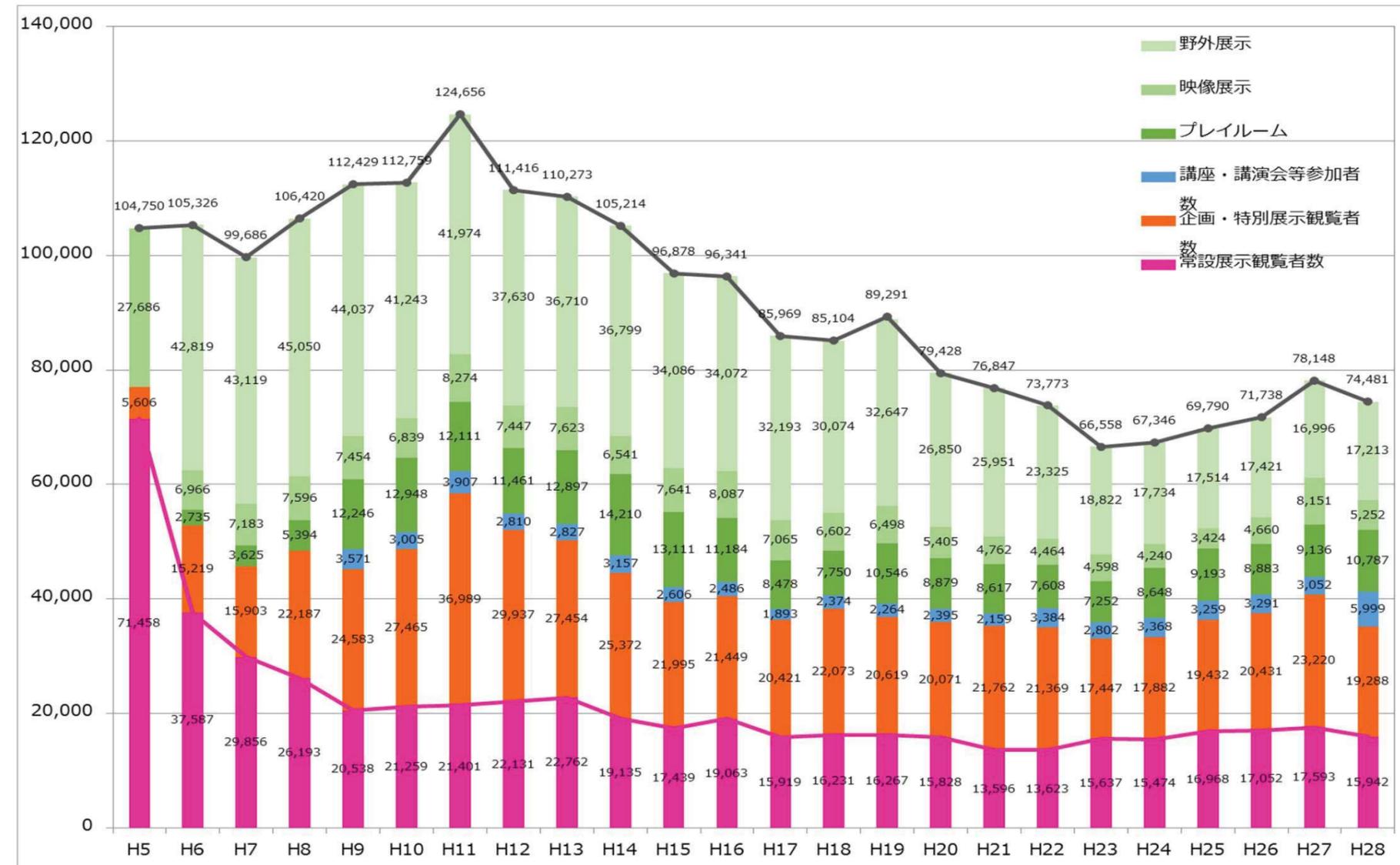
	年度・回	開催年月日	本計画に関する内容
1	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 6 月 4 日(日)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
2	平成 29 年度 第 2 回	平成 29 年 10 月 8 日(日)	松戸市立博物館の常設展示の一部改修について(諮問)
3	平成 29 年度 第 3 回	平成 30 年 3 月 3 日(土)	松戸市立博物館「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想と基本計画(案)について
4	平成 30 年度 第 1 回	平成 30 年 6 月 2 日(土)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
5	(出席不足で会議不成立)	平成 30 年 11 月 24 日 (土) (懇談会として実施)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について
6	平成 30 年度 第 2 回	平成 31 年 3 月 2 日(土)	「(仮称)こども歴史博物館」の展示構想について(答申)
7	令和元年度 第 1 回	令和元年度 8 月 18 日(日)	1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画策定の今後の進め方について 2. 計画の骨子について 3. 企画展「こどもミュージアムーおとなも楽しい歴史体験ー」視察見学、意見交換
8	令和元年度 第 2 回	令和元年 11 月 16 日(土)	1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について 2. (仮称)こども歴史博物館構想について <ul style="list-style-type: none"> ● こどもモニター意見発表 ● 企画展「こどもミュージアム」の検証報告
9	令和元年度 第 3 回	令和 2 年 3 月 7 日(土)	リニューアル基本構想・基本計画について
10	令和 2 年度 第 1 回	令和 2 年 10 月 25 日(日)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画について <ul style="list-style-type: none"> ● 常設展示リニューアルの方針と今年度目標 ● 常設展示内覧 ● リニューアル基本構想・基本計画策定スケジュール
11	令和 2 年度 第 2 回	令和 3 年 3 月 20 日(土)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子(案)について
12	令和 3 年度 第 1 回	令和 3 年 7 月 25 日(日)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について
13	令和 3 年度 第 2 回	令和 3 年 11 月 14 日(日)	松戸市立博物館常設展示利用者調査の報告について
14	令和 3 年度 第 3 回	令和 4 年 3 月 19 日(土)	松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画(案)について

5-(2)計画素案（平成 28 年 2 月作成）

- 現状分析・・・・・・・・・・9
- 上位計画との整合・・・・・・・・13
- 具体的な方策の析出・・・・・・・・15
- こども歴史博物館・・・・・・・・17

	博物館事業	現状分析	今後の課題・改善策
有料	常設展示	開館の翌年度には観覧者数が減少し、平成9年度以降は2万前後と横ばい傾向にある。平成21年度に13,000人代に落ち込んだが、平成23年度に小中学生の観覧料を無料に改訂したこともあり、それ以降は徐々にではあるが増えつつある。	開館後、展示更新をしていないため、一度見ればよいと判断されており、常設展示の観覧を主目的に利用するケースは少ない。 固定化しない、いつも新鮮な常設展示になり得るよう、刷新が必要。
	企画展示	平成8年度以降は、ほぼ2万人前後の利用者を獲得できているが、平成12年度から企画展の本数と予算が減少したため、利用者数が少々落ち込んでしまっている。	企画展の観覧者が多ければ、利用者総数もあがる傾向が見られることから、利用者数拡大をめざすためには、集客力ある企画展が開催できる予算措置が必要。
無料	講座・講演会等	平成22年度以降、講座数の増加により、平均して3000人前後の参加者を確保している。	館外（学校・町会等）での活動も始めており、今後利用者数は増える可能性大。現状を維持しつつ、利用拡大に努力。
	プレイルーム	平成9～16年度までは1万人以上を超えているが、平成17年度以降は8000人前後にとどまっている。常設展示利用者の減少が影響している可能性がある。	平成27年度から、気軽に参加できるプログラム（ぬり絵、縄文衣装体験等）を開始。利用を拡大し、満足度の高いプログラムの開発を進め、リピーターの確保に努める。
	映像展示	平成19年度までは6千～7千人台で一定した利用者数を確保しているが、平成20年度以降は4千人前後に推移。テーマ設定が企画展等と連動しているため、観覧者数の影響を受けている可能性がある。	映像ソフトが豊富なので、それを生かした活動を今後も展開。ただし、コンテンツの価値が認識されていない。認知度を高め、館外での利用拡大もめざし、学習資源として有効活用できる体制を整備。
	野外展示	平成19年度までは3万人以上の利用があったが、団体利用が減少したことにより、利用者数が減っている。	公園と一体となった利用プログラムを立案し、遠足利用や校外学習の場としての利用拡大をめざす。そのためには、学校、公園や旅行会社との連携・協働体制の強化も必要。

開館からの利用者数の推移



↓

利用者拡大に向けた方策（案）

ハード

常設展示：常に新鮮な体験を提供できる展示に
改修あるいはリニューアル
次世代の子どもが学べる歴史展示

ソフト

集客力のある企画展の開催（予算確保）
館外での活動展開（講演・映像貸出等）
体験プログラムの拡充（リピーター確保）
学校団体の利用メニューの整備（協働事業）

H5~8 講座・講演会等の参加者数不明
H5 無料空間の利用者数の内訳不明

SWOT分析



今後の成長策・改善策

内部要因・内部環境分析	強み strengths	弱み weakness
	<ul style="list-style-type: none"> ●市の直営なので経営は安定している ●歴史・民俗・考古の3分野の学芸員がバランスよく7名配置されている ●学芸員以外にも利用者と接するスタッフがいる ●多くの体験教室や講座を開催している ●縄文遺跡の豊かな出土資料（重要文化財を含む）がある ●水戸街道や牧などに関する近世史料がある ●東京に近いので情報が得やすく、他館との交流がしやすい ●公園利用者が博物館も利用（家族連れが立ち寄る） ●公園内の野外環境を活用したプログラムを提供 ●周辺に文化施設が隣接している ●小学生の団体利用が多い ●柏市の小学校も利用している ●高齢者の利用も多い ●ミュージアムシアターで投影できる映像ソフトを多く所有しているの で、毎月ソフトを変えることが可能 ●シルクロード関係の資料がある ●喫茶コーナーの料理がおいしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規事業への予算措置がない ●施設が老朽化（開館後23年経過） ●常設展示が開館以降、更新されていない ●市民や他の施設、町会、商店会等との協働体制が弱い ●友の会以外の歴史ファンのグループの交流が希薄 ●市外、県外の博物館との共同事業が少ない ●観光資源・史跡整備との連携が弱い ●学術的な専門的機関として活用されていない ●博物館が有するコンテンツが市内で有効活用されていない ●館蔵資料の情報が原則非公開で、市民が利用しにくい ●博物館からの情報発信力が弱い ●ホームページは市の規制が強く、改編できない ●中学生・高校生・大学生の利用が少ない ●ファミリー層に休日を過ごす場所として認識されていない ●専用駐車場がない、公園駐車場料金500円が不評 ●小中学生は無料(4年前)だが、高校生以上は有料（常設300円、企画展300円）のため、家族で展示を見るのを妨げている ●周辺の公立博物館は松戸市博よりも規模が小さいが無料、相対的に割高感あり ●身体障害者、70歳以上は市内在住者のみ無料、料金体系の見直しが必要 ●最寄り駅からやや遠い（徒歩15分） ●公園内に博物館があることを知らない人がいる ●開館時に比べると市内部の評価が低下傾向にある ●ミュージアムショップの品揃えが少ない ●上野に近いので、都内の博物館と比べると存在感が薄い
外部要因・外部環境分析	機会 opportunities	脅威 threats
	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの学習のためにお金をかける・時間を割く ■高齢化（市民参加による博物館運営の機会増大） ■松戸市の人口は横ばいだが、世帯数は増えている（子育て層の転入） ■レジャー志向：近場で安く済ませる傾向「安・近・短」 ■社会貢献志向：企業・大学・高齢者が活動の場を求めている、パートナーを求めている ■地域愛：地域を盛り上げたいと考える市民（若い世代も含めて）が増えている ■学習指導要領で博物館利用を推奨 ■小学校で「昔の暮らし」の単元がある ■近隣の柏市に博物館施設がない ■近隣市の類似施設が乏少状況（鎌ヶ谷市は企画展示室がないなど） ■松戸市は、文化・歴史（観光）の魅力PRに重点を置いている ■博物館が文化資源の掘り起こしの中核になり得る可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■少子化 ■高齢社会 ■消費税アップによって各家庭でレジャー費用削減の可能性 ■地方自治体の財政難 ■緑環境の減少 ■地球温暖化による自然災害の多発 ■巨大地震 ■戸定歴史館は観光資源として価値が市内で認識されているが、博物館は学術的文化施設としての存在意義が認められていない

強み×機会 成長戦略

学芸員やスタッフから、質の高い博物館体験を提供
松戸の歴史を体験しつつ学べる場
まちづくりを学術的にサポート
公園利用者の博物館利用拡大
文化的価値の高い資料やコンテンツの有効活用 等

↓

博物館の価値認識を高め、利用拡大を図るためには
情報発信できるしくみや
博物館の資源を市民が有効利用できるしくみが必要

弱み×機会 改善戦略

子育て世代向けのプログラムの開発・拡充
学校団体向けのプログラム拡充
子どもが楽しく歴史学習できる場
常設展示のリニューアル
松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能強化
学習支援のためのデジタルアーカイブの構築（協働）
市民や市の機関との連携・協働体制の強化
協働事業の活性化
家族連れが活用しやすい料金体系
高齢者・障害のある方が利用しやすい料金体系
博物館利用者に向けた公園駐車場料金の減免
駅からのアクセスの改善
駐車場からの案内サインの改善 等

↓

子育て世代・家族連れ・学校団体が利用しやすい施設
に改善していくためには、
博物館の現場だけでなく、市全体での取組が必要

<p>松戸市総合計画・後期基本計画 2011 →第6次実施計画2016 (H28~32)</p> <p>●後期基本計画で定めるめざした未来像 自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街 住んでいるのが誇らしく思える街 みんなの協力で賑わいのある街</p> <p>第3節 次代を育む文化・教育環境の創造</p> <p>すべての市民が生涯にわたって主体的に文化、芸術、スポーツなどを学習できるよう環境を整備し、国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、郷土に誇りと愛着がもてるまちづくりを進めます。また、次代の担い手である子どもたちが、個性や創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていきます。</p> <p>政策10 国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします</p> <p>●めざしたい将来像 平和を大切に、松戸を愛する人を増やすために、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りの持てる“ふるさと松戸”を実現します。</p> <p>●施策の展開方向 ①固有の文化・伝統に触れることができるようにします</p> <p>郷土の歴史や伝統・文化を市民に知ってもらうため、文化財の基礎調査を進め、標識柱や案内板を整備します。市立博物館については、「見て・触れて・身体で感じる」とする基本コンセプトは守りつつ、資料の展示方法の改善や展示替えを行い、リピーターにも新しい発見ができるよう創意工夫を凝らしていきます。戸定邸及び戸定歴史館については、隣接する千葉大学松戸キャンパスの緑、イタリア式庭園、フランス式庭園などとの連携も視野に入れつつ、戸定が丘緑地の文化的資産を市民と協働して活用し、若手芸術家などとの連携による芸術の創造なども図りながら、より複合的に魅力を高めていきます。</p> <p>●施策を推進していく上での課題 歴史文化の保存活用を推進していくためには、地域に愛着や誇りを認識する機会を増やしていく必要があります。市民、地域で活動する団体、企業と連携し、文化的価値を次世代へ伝えていくこと、周辺環境に配慮しながら、地域のアイデンティティーの活性化へつなげていくことが課題です。</p> <p>特筆すべき松戸の強み 郷土の歴史や文化の保持、継承、郷土を知るための普及活動や情報発信ができる博物館と戸定歴史館がある！</p>
--

松戸市博物館に
求められている役割
期待に応えるために変わります！

松戸ブランドの価値創出
松戸の歴史・文化を
誇らしく思える博物館

松戸の歴史・文化を保存・継承し、
価値発信し、郷土を学ぶことが
できる展示・普及活動を行う。
松戸の3万年の歴史を楽しく学べる場。

みんなが利用できる
情報基盤を構築
松戸の歴史・文化の
学術的なデジタル
アーカイブセンター

学術的な情報やコンテンツを博物館
が提供し構築。子どもも大人も学習
に活用でき、松戸市のまちづくりにも
活用できる。
次代を育む文化・教育環境の創造の
基盤として、市民が有効活用。
文化財の保護・活用の推進。

協働のまちづくりの担い手育成
松戸の歴史・文化を
次世代に伝える人材育成拠点

学習成果を生かせる場として、自己
実現を実感できる場、社会貢献
の場として、博物館を市民に開放。
ガイド育成や講師派遣を積極的に
行い、まちづくりの担い手を育成。
また、様々な担い手が集える交流
の場としても活用。

<p>松戸市社会教育計画 2015</p> <p>基本理念 自ら学び 学び合う、人と人がつながるまち ~学習成果を生かすことができるまち・松戸を目指して~</p> <p>社会教育の課題 4.社会教育施設の整備・充実 ④博物館：社会教育の中心施設として博物館は、市民が地域の歴史、文化、芸術により一層関心を高められる機会を提供できるよう、本市の文化資源を生かした博物館の企画展等を更に充実することが課題となっています。</p> <p>●基本目標1 市民の多様なニーズに応え、地域の課題や歴史・文化・伝統に気づく学習機会の充実 施策(4) 松戸の歴史・文化・伝統を学習する活動の推進：博物館展示事業、博物館学習支援事業、博物館歴史資産収集調査事業、市史編さん事業</p> <p>●基本目標2 市民を惹きつけ、広く行き渡る情報提供・相談 施策(1) 情報の周知、情報を得る方策への配慮：広報活動の推進、行事内容に即した対象者への情報発信の強化 施策(3) 学習相談体制の充実</p> <p>●基本目標3 学習者の学習成果を地域に生かす仕組みづくり 施策(2) 施設の整備及び施設連携や施設機能の活用方法の周知などによる利用促進：博物館管理運営事業（市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置した施設であり、利用者が安全で快適な環境で学習できるよう更なる利用の促進を図る） 施策(3) 学習意欲を喚起し、自己実現を実感できるステージへの誘導：博物館友の会支援・協働事業</p>

<p>協働のまちづくり条例 2007 → 松戸市協働推進計画 2012</p> <p>3つの基本方針 協働のまちづくりの担い手育成 多様な主体同士の協働を促進 施策の推進体制を整備</p>

<p>松戸市文化芸術振興基本方針 2014</p> <p>基本方針3 郷土の歴史・伝統文化遺産を次世代に引き継ぎます</p> <p>3-1 文化財の保護と活用：文化財マップ、文化財の説明板・標柱の設置・補修、市史の編纂</p> <p>3-2 伝統文化の伝承への支援：学校への学芸員の派遣、学芸員によるシティガイド等のスキルアップ事業の実施、デジタルアーカイブの構築事業の推進</p>
--



これまで行ってきた活動・さらにプログラムやコンテンツの充実

新規で取組

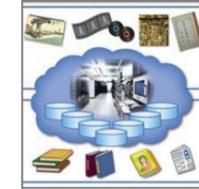
調査研究
収集・保存



松戸市の豊富な
歴史・文化資料の
収集・保存・調査研究



市史編纂



松戸市の歴史・文化に関するデジタルアーカイブの整備
市民で幅広く活用

展示



常設展示
原始から
現代までの
歴史展示



常設展示
ガイドツアー、解説員に
よる展示説明、ワーク
シートの整備による学習
支援

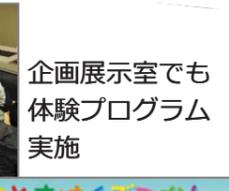
これまでの
蓄積を生かし
常設化！
新たな魅力
創出！



常設展示
こども歴史
博物館（仮称）
参加体験型展示



企画展示
多様なジャンル
これまでと異なる
アプローチにも
挑戦



企画展示室でも
体験プログラム
実施

企画展示
今後も継続
利用者拡大のためには開催本数を増やし、
集客力ある企画展の開催も必要

教育普及



プレイ
ルームでの
体験プログ
ラム



様々な
体験講座



こども
はくぶつかん
体験プログ
ラムとして実施
ソフト展開



教育普及活動のプログラムの拡充
幼児を連れた子育て世代や子どもだ
けのグループでも気軽に参加できる
メニューを市民参加型で開発



博物館実習や
職場体験等の
キャリア教育
支援



シアターで
の映像展示
や講演会の
開催



友の会活動



ボランティア
活動の場
歴史学習・人
材育成の場

野外展示



竪穴式住居で
の体験
工芸館や広場
での紙芝居等
のイベント



公園内の土
地を利用し
た米作りの
通年プログ
ラム

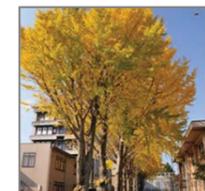


公園と連携した
個人利用・団体
利用向けのプロ
グラム開発

連携強化



近隣のホールや戸定歴史
館、その他の市の施設や
機関との連携強化、協働
事業の実施



大学・企業・市民グ
ループとの連携強化
協働事業の実施

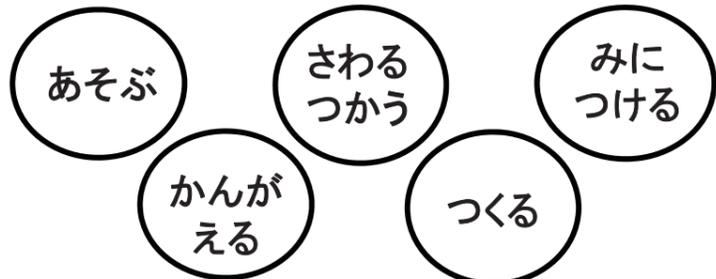
「こども歴史博物館」は・・・

- こどもや大人、あらゆる年齢の人たちが松戸や生活の歴史を楽しく学べる場所です。
- さまざまな体験などのメニューを通して、親子や祖父母など世代間の交流を育む場所として活用されることを目指しています。
- 4つのコーナー「やってみようコーナー」「たんけん隊コーナー」「しらべるコーナー」「みんなのコーナー」では、常設及び企画展示室の内容をいろいろな切り口で体験するアイテムが用意され、常に新たな歴史体験ができる広場とします。

☆やってみようコーナー

- ・考古学・歴史学・民俗学の分野などから生活史、文化史に関わるさまざまな体験プログラムを用意し、実際に資料(レプリカ・普及用資料)に触れたり、使ってみることで、歴史の楽しさを体感するコーナー。

体験プログラム 5つのテーマ



☆しらべるコーナー

- ・各コーナーで調べものや、展示をより深く知りたい際に役立つ情報を提供するコーナー。
- ・松戸の歴史を調査するための情報検索ツールとして写真や地図などを用意し、調査したデータを元に学び(研究)を深めるフィールドワークの基地となります。

☆たんけん隊コーナー

- ・常設展示室や企画展示室の展示に関するクイズや体験メニューを用意し、展示室を探検して、その解答をみつけるミッションに**チャレンジ**するコーナー。

- ・チャレンジした中で、興味を持ったテーマを**ふりかえり**、その意味を「しらべるコーナー」で考えます。

※たんけんツールの例 ・こどもクイズ
 ・こどもワークシート ・(竪穴住居探検手帳)

☆みんなのコーナー

- ・松戸市立博物館で行われる活動を紹介するコーナー。いわゆる掲示板(+作品展示)

- * 博物館アワード作品(イラスト・レプリカ作品など)
- * 小学生学芸員米づくりパネル
- * 中学生職場体験(ポスター)
- * ぬりえ など

常設展示室

企画展示室

野外展示

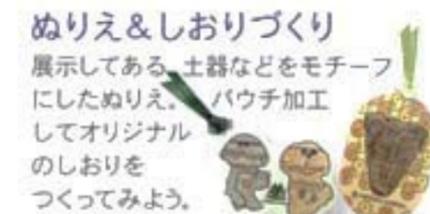
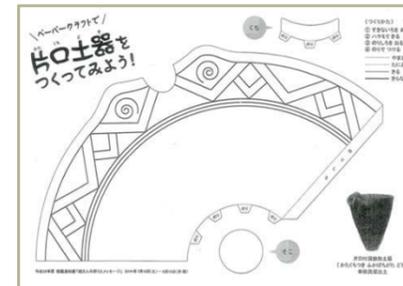
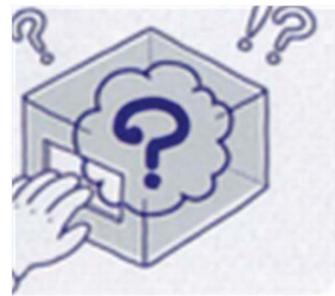
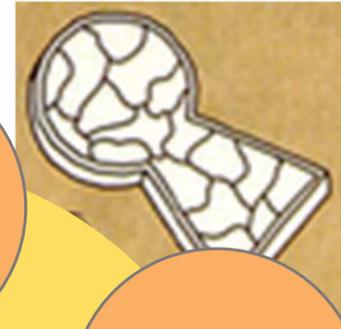
- ・竪穴住居
- ・水田(米)

チャレンジ

ふりかえり



松戸の歴史や文化財 (フィールドワーク)



5-(3)松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）（平成29年10月）

松教生博第180号

平成29年10月8日

松戸市立博物館協議会

会長 濱島 正士 様

松戸市立博物館長 望月幹夫

松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問）

博物館法第20条第2項及び松戸市立博物館条例第8条の規定により、下記の事項について諮問します。

記

- (1) (仮称)「こども歴史博物館」の展示構想について
- (2) その他関連する事項について

なお、この諮問にかかる答申は、平成31年3月31日までに提出をお願いします。

参考資料

1 松戸市立博物館常設展示の現状と課題

詳細は「松戸市立博物館 今後の事業計画（案）」を参照

2 主要な問題意識と課題

(1) 博学連携事業の伸展により小学生を中心とするこどもたちの団体利用が増え、それに伴って親世代や祖父母世代の来館も増えつつあるが、親世代・祖父母世代からは、こどもや孫と一緒に体験したり、楽しんだりするような工夫がほしいとの要望が寄せられている。

(2) 現在の松戸市立博物館は、親子や祖父母と孫、または3世代による来館者のように、こども世代とおとな世代とが一緒に歴史学習を楽しめるような体験型の展示環境にはなく、また常設展示室の学習レベルを「義務教育終了程度」に設定しているため、小学生が単独で歴史学習を行える環境にはなっていない。

3 解決への道筋（ハード面）

(1) プラン1「展示室の全面改修」

総合展示室・主題展示室等すべての展示内容を検討し直して、新たな展示として入れ替えることが望ましい。しかし、当館は1,000㎡規模の展示面積を持ち、全面改修には相応の時間も費用もかかることから、直ちに手をつけられる見込みはない。

(2) プラン2「展示室の一部改修」

現在の展示室全部ではなく、展示室の一部を対象にして、課題に即した改修を施すことは可能である。また、時間や費用の面からも現実的な解決策となる。

4 解決への道筋（ソフト面）

(1) これからのまちづくりのためには、松戸市で育つ「まつどっ子」たちが地元へ愛着を感じることを肝要である。そのためには正確な知識をもとに、地域の歴史を深く理解する必要があり、「歴史博物館」が果たすべき役割のひとつはそこにある。

(2) 親と子、祖父母と孫のように、展示をきっかけにして、こどもとおとなが松戸市の歴史について語り合い、相互に学習できるような環境（施設）づくりをめざす。これはすなわち、世代から世代への連環と、世代を超えたつながりや学習の機会を持ち得るような環境（施設）づくりをめざすことを意図する。

5-(4)松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）（平成31年3月）

平成 31 年 3 月 31 日

松戸市立博物館長 望月幹夫 様

松戸市立博物館協議会
会 長 濱島 正士



松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）

— 「（仮称）こども歴史博物館構想」 —

平成 29 年 10 月 8 日付け松教生博第 180 号で諮問のありました標記について、次のとおり答申します。

目 次

はじめに（諮問に至る経緯）

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

- 1 松戸市立博物館の現状と課題
- 2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像
- 3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

第2章 「（仮称）こども歴史博物館」の展示構想に向けて

- 1 目 的
- 2 めざす姿（基本的考え方）
- 3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 4 「体験型学習」による質の高い理解
- 5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割
- 6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割
- 7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

資 料

- 1 博物館協議会での協議経過
- 2 各年度の協議会開催日と議題
- 3 松戸市立博物館協議会委員名簿（平成31年3月31日現在）

はじめに（諮問に至る経緯）

松戸市立博物館は平成5年4月29日の開館後25年が経過して、常設展示室（総合展示室、主題展示室）の展示機器や展示物等のハード面の老朽化が目立つようになり、また社会情勢の変化に伴うソフト面での新たな課題も明らかとなってきました。市民の期待に十分に答えるための博物館機能の充実が求められています。

このため、松戸市立博物館では内部研究会を立ち上げてリニューアルに向けた調査研究に努めてきましたが、平成29年10月8日の博物館協議会において、松戸市立博物館長から博物館協議会会長あてに諮問を受けました。

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

1 松戸市立博物館の現状と課題

松戸市立博物館の現状認識と課題は以下のとおりと考えます。

- (1) 平成5年の開館からの数年間は、21世紀の森と広場、文化会館（森のホール21）との同時期開館により多くの市民に認知され、来館される施設となりましたが、それ以降に転入した市民には十分に認知されていない状況で、常設展示の来館者数が減少傾向にあります。
- (2) 松戸市立博物館の展示解説は、中学校卒業程度の理解度を想定した文章で作成されていますが、小学生以下の子どもや外国人来館者に対応できていません。
- (3) 多くの体験教室や講座を開催していますが、参加者が固定化していて、ファミリー層が休日を過ごす場所としての認知度も低い状況です。
- (4) 松戸市立博物館は、多くの縄文遺跡から出土した考古学資料や、本土寺過去帳などの中世史料、水戸道中や牧などに関する近世史料等を有する学術的な専門機関ですが、そうした認知がなされていないため、多くの市民に活用される施設となっていません。
- (5) 施設老朽化に対応した改修計画が必要となっています。また、最寄り駅（八柱駅、新八柱駅）からやや遠いためアクセスが悪く、専用の駐車場がないことも相まって、訪れにくい施設とイメージされています。

2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像

市民の期待に応えるために、これからの松戸市立博物館には、次のような役割が求められています。

(1) 松戸ブランドの価値創出…市民が松戸の歴史や文化を誇らしく思えるための博物館として、本市の貴重な資源と財産であり続けること

- ① 松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能
- ② 集客力のある企画展の開催
- ③ こどもが楽しく歴史・文化を学ぶ参加・体験型博物館
- ④ こどもにもわかりやすい常設展示

(2) みんなが利用できる情報基盤の構築…松戸の歴史や文化の学術的価値を多くの市民に知ってもらい、活用してもらうこと

- ① こどももおとなも学習に活用でき、まちづくりに活用できるデジタルアーカイブ
- ② 情報発信を強化するとともに、利用しやすいアクセス手段の確保
- ③ 外国人の来館者に対応するため、多言語に対応した展示解説

(3) 協働のまちづくりの担い手としての人材育成拠点…歴史と文化を次世代に伝える人材を育成して、松戸に誇りと愛着をもつこどもたちを育てること

- ① 市民に向けて、まちづくりを学術的にサポートする体制づくり
- ② さまざまな団体が集える交流の場としての機能と人材育成の拠点

3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

現在松戸市立博物館が抱えている課題を解決し、「めざす博物館像」の実現に向けて、以下のような具体的な方策が必要です。

(1) 安全のための総合展示室の大規模改修と、アクセスの改善を検討する

- ① 施設老朽化に対応するため、調査の結果耐震性において不適合であった吊り天井の改修工事や、修理不能となった照明器具の改修工事を実施する必要があります。
- ② 高齢者、身障者、こどもの団体利用のニーズに対応するために、来館者のアクセスの改善を検討する必要があります。
- ③ 総合公園内や総合公園駐車場からのアクセス表示をわかりやすく改善する必

要があります。

(2) 松戸市の歴史資源に関する学術的研究機関として、情報を整理し情報発信を強化する

①膨大な歴史資料等をデータ化して整理し、市民が活用できるようにデジタルアーカイブを構築することが必要です。

②より魅力のある企画展を開催し、企画展の内容を学術的な成果として残すことが必要です。

③松戸市立博物館が、市民にとっての歴史や文化の情報源として活用されるように、情報発信の強化を図ることが必要です。

(3) こどもや外国人にもわかりやすい展示内容と展示解説に改善する

①こども向けのプログラムを数多く開発するとともに、わかりやすい資料展示や展示解説の表示など、こどもたちが楽しく歴史学習をできる展示として改善することが必要です。

②外国人来館者のニーズに対応するため、多言語対応の展示解説や、音声データ等を利用した展示解説機能の充実が必要が必要です。

第2章 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想に向けて

1 目的

これからのまちづくりのためには、松戸市で育つ「まつどっ子」たちが地元に着を感じることが肝要です。そのためにはこどもたちが正確な知識をもとに、地域の歴史を深く理解する必要があり、松戸市立博物館が「歴史博物館」として果たすべき役割のひとつはそこにあると考えます。

これからの松戸市立博物館は今までよりも若い世代の市民をターゲットとして、親と子、祖父母と孫のように、展示をきっかけにしてこどもと家族や地域・団体のおとなたちとが松戸市の歴史について語り合い、相互に学習できるような環境(施設)をめざし、世代から世代への連環と、世代を超えたつながりや学習の機会を持ち得るような環境(施設)づくりをすることが求められています。

そのためには、常設展示の一部改修を念頭に置いて、まず松戸の次世代を担うこどもとその家族や、地域・団体を主要なターゲットにした「(仮称) こども歴史博

物館」を設置することを主眼とする「（仮称）こども歴史博物館構想」について答申します。

2 めざす姿（基本的考え方）

松戸市立博物館は、展示や活動に関して独自の特徴を持ちつつ運営されています。これを踏まえて、「（仮称）こども歴史博物館」では、松戸市立博物館ならではの松戸の歴史を発見できるような展示としての特徴を持たせることが必要です。

多くの市民に親しまれ、楽しく訪れやすい施設となるためには、あらゆる年齢層の市民が博物館に来てどのようなことを学んでいくかということを考えると同時に、歴史には興味関心の薄い市民にも、訪れてもらうための仕組み作りが必要です。

松戸市立博物館には、開館以来各分野（考古学・歴史学・民俗学）にわたる館長を含めて8名の学芸員が配置されており、幅広い視点での展覧会、企画事業、講演会等を開催し、松戸の歴史や文化に関する社会教育に貢献してきました。これからの「（仮称）こども歴史博物館」の運営にあたっては、直接その事業に従事する専門家として、より多くの学芸員の人数を確保することが必要です。

3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現

小学校では2020年度から、中学校では2021年度から2030年度までを見据えて学習指導要領が改訂されます。この改訂学習指導要領の目的である「主体的・対話的で深い学び」を取組むための施設として、博物館の果たす役割の重要性がますます高まると考えます。

また、改訂学習指導要領では、遺跡や文化財についての調査活動を取り入れて専門機関との連携を図ることが求められております。松戸市立博物館では、これまでも「博学連携プロジェクト」に取り組んできていますが、今後は市の文化財保護行政担当課・担当機関とともに小中学校との連携がより一層必要となります。

小学校の教員は松戸出身者とは限らず、松戸の歴史についての知識が浅いこともあるため、「（仮称）こども歴史博物館」では、こどもたちにどのように学んでほしいか、何を身につけてほしいかのコンセプトを明確に発信することが必要です。あわせて、小学校3年生用の副教材『のびゆく松戸市』と連携した企画に取り組むことも必要です。

4 「体験型学習」による質の高い理解

こどもが主体的に楽しく学習に向かい、質の高い歴史理解をするためには、そのきっかけとなる「体験型学習」による取り組みが必要です。博物館に収蔵されている多くの実物資料に触れるなどの実体験は、より深い理解につながります。

「(仮称) こども歴史博物館」に「やってみようコーナー」「しらべるコーナー」「探検隊コーナー」「みんなのコーナー」を設置することにより、子どもたちの主体的な学習活動がわかりやすく展開し、その活動が総合展示、野外展示(復元竪穴住居)、企画展示と連携して、より深い学びにつながるような仕組みとすることが必要です。また、子どもたちが昔の暮らし方や知恵、人々のつながりを想像することにより、松戸に住んでいることを誇りに思えるような仕組みとすることが必要です。

こどもの「やりたい」「触りたい」「聞きたい」「知りたい」という思いにこたえるためには、こども自身の取り組みに共感でき、子どもたちに松戸の歴史を伝えられる「おとな」が配置されていることが必要です。また、こどもは自分が認められたという経験により大きく成長しますので、「(仮称) こども歴史博物館」では、「こども探検隊バッジ」や「体験スタンプ修了証」「こども歴史博士認定証」などの、こどもがわくわくするような仕掛けを作ることも必要です。

5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割

松戸市立博物館には小学校、幼稚園、保育所等の団体利用に向けてのプログラムはありますが、家族の多世代利用、すなわち休日に家族が博物館を利用して一緒に学ぶ体験ができるようなプログラムは充実していません。「(仮称) こども歴史博物館」には、親子が共通の体験をすることにより、学びと遊びの体験を共有できるようなプログラムが必要です。

家庭教育や子育てについて不安に感じている保護者には、親子が一緒の時間を共有したり経験を共有したりすることが必要であり、松戸市立博物館はそれが実現できる施設であることを強く伝えていく必要があります。

6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割

松戸市立博物館では、「松戸市立博物館友の会」との協働によりさまざまな事業

に取り組み、相互の発展と市民の松戸の歴史や文化の理解の推進にあたってきました。今後はその連携をさらに進めるとともに、自ら子どもたちに歴史を伝える活動をする市民を増やすための人材育成の仕組みを作ることが必要です。

松戸市には、子ども会、放課後児童クラブ、青少年会館、児童福祉館、こども館、青少年相談員をはじめとするこども・子育て支援団体や施設が多く存在しています。それぞれの団体や施設と連携して、多くの子どもたちに「（仮称）こども歴史博物館」を活用してもらうことが必要です。

7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

松戸市立博物館協議会は、これまで常設展示改修についての協議を重ねてきました。今後は本答申の内容を次期「松戸市総合計画」や「松戸市教育委員会教育施策基本方針」に反映させるとともに、松戸市立博物館「（仮称）こども歴史博物館基本方針」及び「（仮称）こども歴史博物館基本計画」の策定を進めてください。

常設展示利用者調査概要報告

はじめに

常設展示リニューアル基本計画を策定する上で、現在の常設展示を評価し、強み／課題を把握することは必要不可欠である。評価のための客観的データを得るため、利用者調査を実施した。これはリニューアルをめぐるこれまでの議論の妥当性を検証すると同時に、新しいアイデアの源泉となることを期待しての調査である。

1. 資料と方法

常設展示利用者を対象とした**面接調査**の結果を資料とする。

調査期間：2021年4月3日～5月16日

※4/29以降は館蔵資料展あり

調査対象：全ての常設展示利用者に回答を依頼。グループの場合は代表1名が回答。

調査内容：本報告末に添付

調査員：学芸員・会計年度任用職員

調査期間中の観覧者2171人のうち**207人**から回答を得た。

常設展示アンケートとの違い

通常の常設展示アンケートは、質問紙を設置して希望者が回答する留置法。ローコストだが、データが無作為ではないため、調査結果が一般的傾向と乖離する可能性があり、もとよりリニューアルを前提とした設問でもない。

分析の視点

- ①利用者像の把握
- ②展示に対する認識
- ③既知の強み／課題の検証
- ④未知の強み／課題の抽出

①は利用者属性（年齢、職業、居住地など）に関する設問（設問1～12）の単純集計結果により検討する。

②は常設展示に関する選択式回答の設問13～23の単純集計結果により検討する。

③は例えば従来から問題視されてきた事象が、実際にどのくらいの利用者に問題視されているのかを定量的に検討する。

④は調査結果のうち従来の知見では説明が難しい項目について、他の項目との相関関係からその背景を探る。

自由記述式回答の分析

設問24～26は自由記述式の設問である。定量的な評価のため、全回答を形態素解析し、出現頻度の大きい名詞・形容詞を含む回答について、共起の状況（同一の文に出現すること）、係り受けなどを分析。

名詞：どのトピックに関心があるか

形容詞：どのように感じられているか

※形態素解析とは

自然言語によるテキストを意味のある最小単位に分解して、品詞・活用などを判別すること。

2. 分析結果①：利用者像

回答者の年齢分布

- ・ 設問 1 の回答を集計 (図 1)。
- ・ 20 代～ 40 代が主体で、7 割を占める。

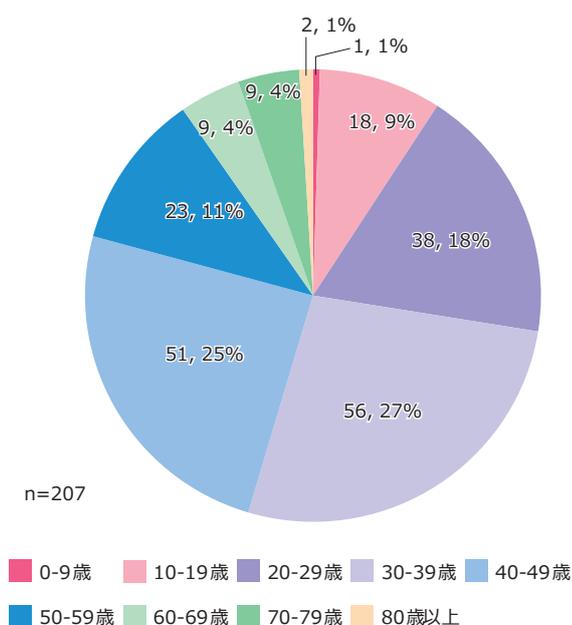


図 1 回答者の年齢分布

グループの構成

グループの関係性 (設問 6)、同行者の人数・諸属性 (設問 10～12) からグループの構成を復元した (表 1)。1 人、2～4 人の親子連れ、友人同士 2 人などの構成が主体。構成人数は 2 人が最多で、2 人グループでは夫婦、親子、友人が同程度。

親子連れのグループが一定数存在すること、親子連れの場合は親が回答者になる場合が多かったことから、10 代以下が利用者に占める割合は、図 1 に示したデータよりも大きいと考えられる。

表 1 利用者グループの構成

グループの構成	人数別グループ数 (組)					
	1 人	2 人	3	4	5	6 人以上
同行者なし	44					
家族		19				
夫婦		19				
親と子		20	7			
両親と子			5	9		
3 世代				2	1	1
祖父母と子			1	3		
兄弟姉妹		3	1			
その他		1	11	5	5	3
家族と友人					2	2
友人		22	3	4	3	2
友人と職場の仲間						1
職場の仲間			1			
その他		13				
合計	44	78	29	23	11	9
人数	44	156	87	92	55	54

回答者の職業・校種構成

- ・設問 2 の回答を集計 (図 2)。
- ・会社員が過半数
- ・同行者に多い 10 代以下の小学生はより高率を占めると考えられる。

回答者の居住地

- ・設問 3 の回答を集計 (図 3)
- ・松戸市内、松戸市以外の千葉県がそれぞれ 4 割程度。
- ・松戸市以外の千葉県の内訳は、市川市 16、船橋市 15、流山市 9、柏市 9、千葉市 9 など (他市町村は 2 以下)。
- ・調査期間のうち 4 月 25 日以降は隣接する東京都に緊急事態宣言が発出され、県境を越える移動に対して自粛が要請された。外的要因により県外からの来館者が減少し、千葉県内からの来館者が優占する結果となった可能性がある。

来館時に利用した交通手段

- ・設問 7 の回答を集計 (表 2)。
- ・複数回答可。利用率の合計は必ずしも 100% にならない。
- ・自動車がおよそ半数を占める。21 世紀の森と広場の駐車場を利用か。
- ・次いで電車および徒歩の組み合わせが多い。

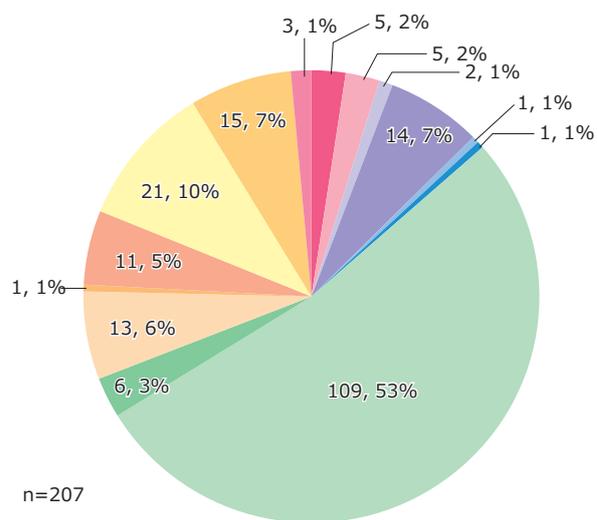


図 2 回答者の職業・校種構成

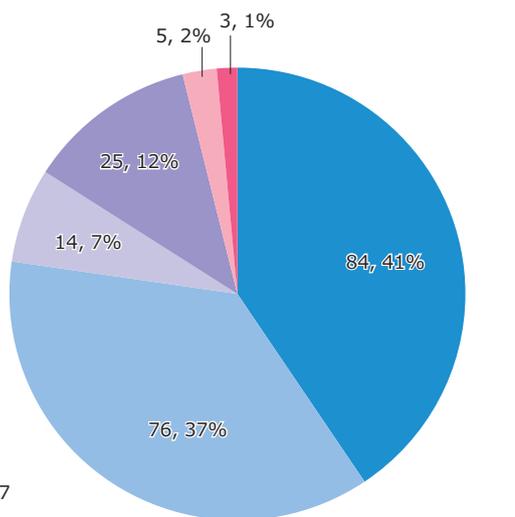


図 3 回答者の居住地

表 2 来館時に利用した交通手段

交通手段 (複数回答可)	回答数	利用率 (%)
自動車	99	47.8
電車	62	30.0
バス	26	12.6
自転車	13	6.3
バイク	3	1.4
徒歩	41	19.8
その他	0	0.0

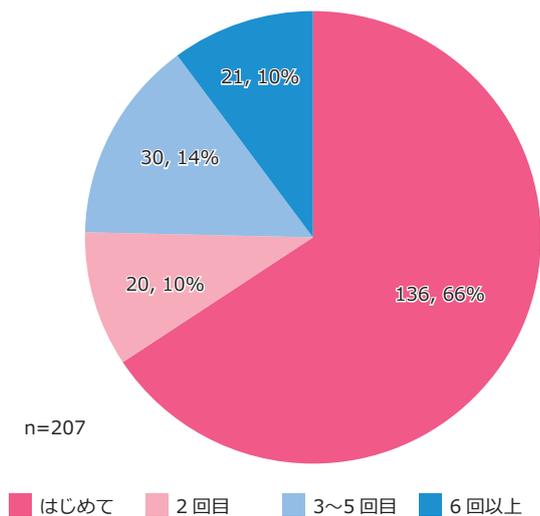


図4 回答者の来館回数

回答者の来館回数

- ・設問8の回答を集計(図4)。
- ・初めての来館が3分の2を占める。

回答者の来館目的

- ・設問5の回答を集計(表3)。
- ・複数回答可。回答率の合計は必ずしも100%にならない。
- ・常設展示を来館目的にあげた利用者は7割。主要な来館目的の1つ。
- ・偶発的な来館者が一定の割合を占める。

表3 回答者の来館目的 回答率は回答者数に対する回答数の割合 回答者(n=207)の内訳は資料展前64、資料展中143

目的(複数回答可)	回答数	回答率(%)	資料展前の		資料展中の	
			回答数	回答率(%)	回答数	回答率(%)
常設展示を見るため	147	71.0	41	64.1	107	74.8
企画展・資料展を見るため	76	36.7	13	20.3	63	44.1
体験教室・講座・講演会に参加するため	2	1.0	1	1.6	1	0.7
復元竪穴住居を見るため	33	15.9	10	15.6	23	16.1
プレイルーム、図書閲覧コーナーを利用するため	8	3.9	3	4.7	5	3.5
たまたま通りかかった	44	21.3	14	21.9	30	21.0
喫茶コーナーを利用するため	1	0.5	0	0.0	1	0.7
その他	10	4.8	6	9.4	4	2.8

従来の認識との比較

従来の認識(リニューアル基本構想・基本計画案より)には、①市内外の小学校とデイサービスの利用が定着、②市内:市外=6:4、③子育て世代を一層確実に呼び込む施策が必要、④中高生・大学生の利用促進が課題などがあった。

それに対し調査結果は、①感染症の影響で団体見学の無い時期の調査のため団体利用を含めた実態は別途検討すべき、②市内:市外=4:6、③30~40代(子育て世代)は主たる利用者、④親子連れは少なくとも33.3%、⑤中高生・大学生・

院生・専門学生は合わせて14%といった結果となった。

30~40代≠子育て世代

- ・年齢と「親子連れである/ない」とのクロス集計(図5)。
- ・親子連れには「成人した子と高齢の親」のグループも含まれる。
- ・30~40代(子育て世代)であっても親子連れグループの割合はおよそ半数。※ただし最小。増える可能性あり。
- ・30~40代のうち一定数は親子連れではない。

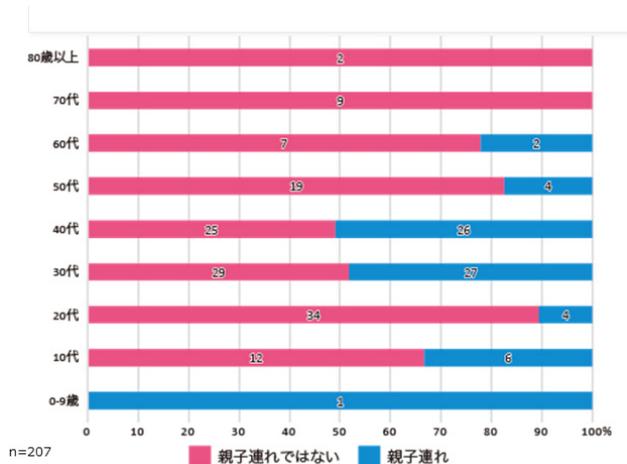


図5 年齢と「親子連れである/ない」とのクロス集計表

見えてきた利用者像

- ・ 20～40代を主体とする。
- ・ 30～40代では親子連れが多いが、親子連れ以外の利用者も相当数含まれる。
- ・ 松戸市内および近隣市町村からの来館者が優占。

3. 分析結果②：展示に関する認識

各展示の利用度および興味・関心

- ・ 設問13・14の回答を集計（表4・5）。
- ・ 表4の利用率は全回答者(n=207)に対する、当該展示を「みた」とした回答者の割合である。
- ・ 表5の回答率は、設問13で当該展示を「みた」とした回答者に対する、当該展示に「興味・関心をもった」とした回答者の割合である。
- ・ 総合展示室内の利用率はいずれの展示も75%を越え、極端な差は認められない。
- ・ 主題展示室の各展示は相対的に利用率が低い。
- ・ 興味・関心をもった回答者の割合は、近現代（団地）が突出して大きく、他の展示は20～40%の範囲におさまる。
- ・ 考古学と科学の眼は調査期間中公開していないので誤回答か。

各展示の満足度

- ・ 設問15の回答を集計（図6）。
- ・ 設問13で「みた」とした展示についてのみ回答するよう指示したが、「みた」とした回答者数を上回る回答が得られた。指示が十分に伝わっていなかった可能性がある。
- ・ 近現代（団地）では「満足」とした回答者の割合が顕著に大きい。
- ・ 他の展示で「満足」とした回答者の割合は39～55%の範囲におさまり、顕著な差は認められない。
- ・ 「やや不満」「不満」とした回答者の割合は主題展示でやや大きいが大きくとも20%を越えない。

表4 各展示の利用度

展示	回答数	利用率 (%)
旧石器	179	86.5
縄文	181	87.4
弥生	160	77.3
古墳	158	76.3
古代	160	77.3
中世	167	80.7
近世	171	82.6
近現代	184	88.9
考古学と科学の眼	86	41.5
虚無僧	150	72.5
二十世紀梨	141	68.1
三匹獅子舞	104	50.2

表5 各展示に対する興味・関心

展示	回答数	回答率 (%)
旧石器	42	23.5
縄文	66	36.5
弥生	36	22.5
古墳	39	24.7
古代	33	20.6
中世	64	38.3
近世	56	32.7
近現代	142	77.2
考古学と科学の眼	9	10.5
虚無僧	36	24.0
二十世紀梨	31	22.0
三匹獅子舞	25	24.0

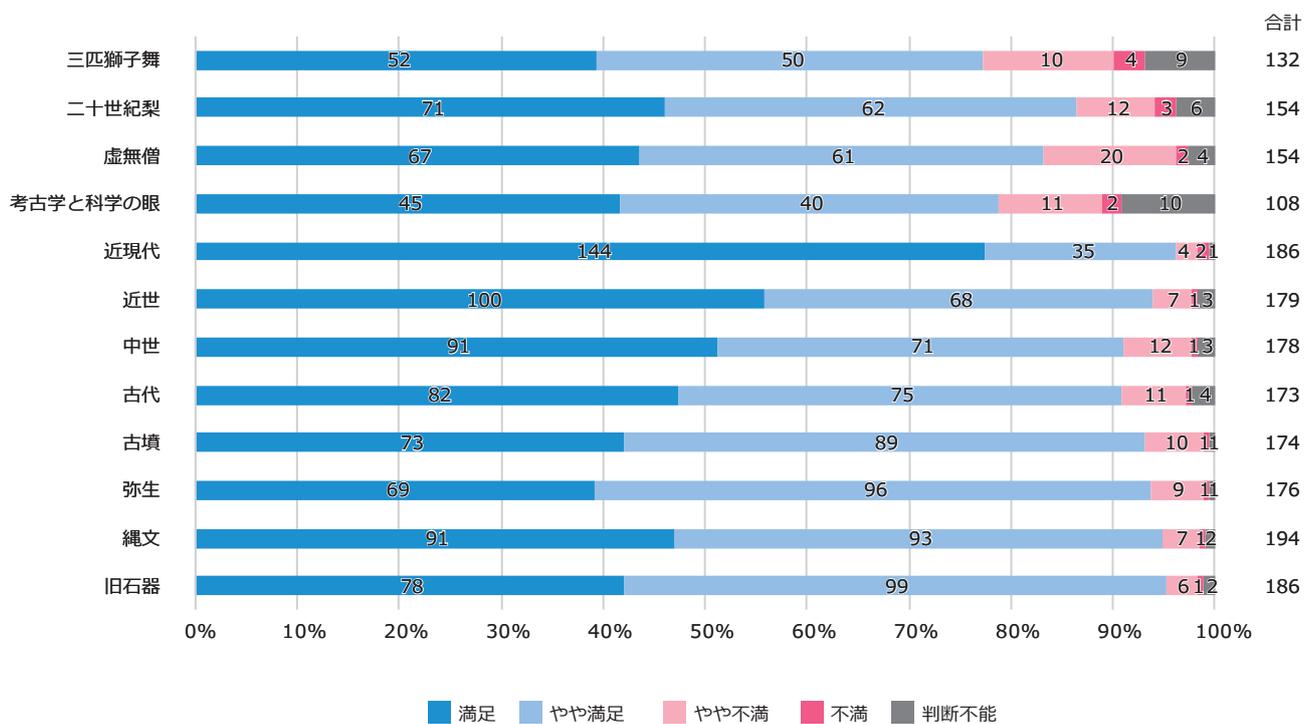


図6 各展示の満足度

常設展示の利用時間

- ・設問16の回答を集計(図7)。
- ・特定の傾向は認められない。

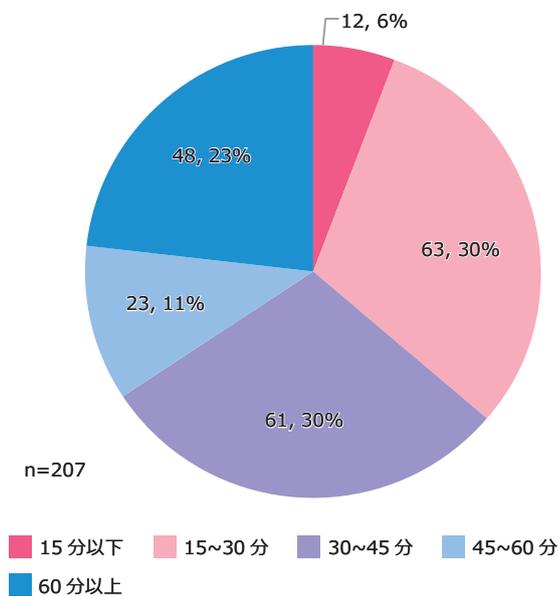


図7 常設展示の利用時間

常設展示の資料数

- ・設問17の回答を集計(図8)
- ・「少なすぎる」と「やや少ない」が過半。
- ・「やや多い」とした回答者は30%。

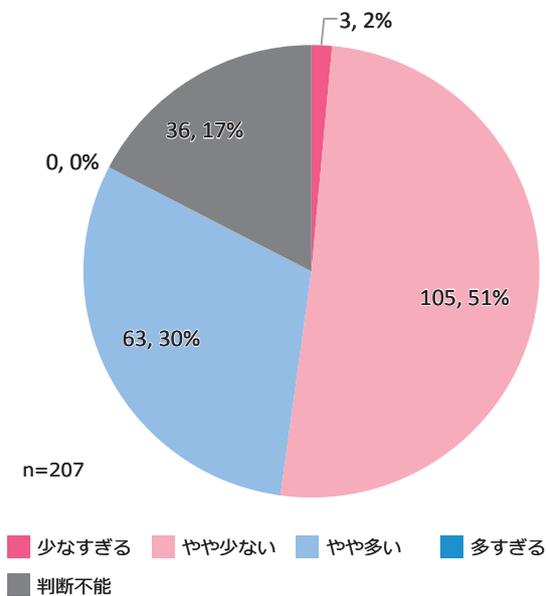


図8 資料数についての認識

解説のわかりやすさ

- ・設問 18 の回答を集計 (図 9)。
- ・およそ半数が「わかりやすい」と回答。「ややわかりやすい」と合わせると 4 分の 3 以上になる。

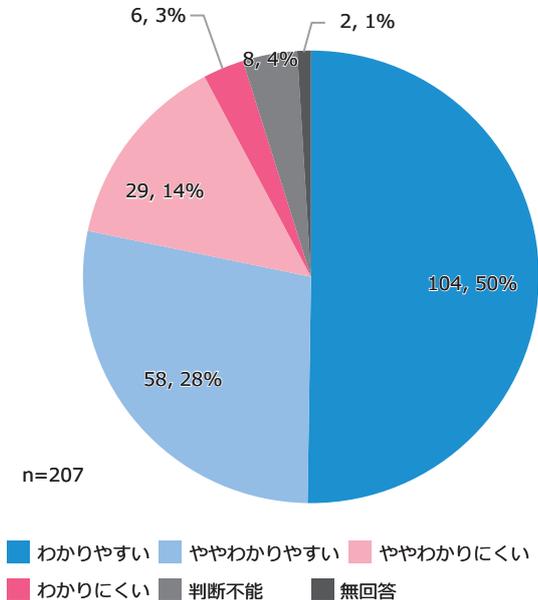


図 9 解説のわかりやすさについての認識

文字の大きさ

- ・設問 20 の回答を集計 (図 11)。
- ・「ちょうどよい」とした回答者が 4 分の 3。

展示の順路

- ・設問 21 の回答を集計 (図 12)。

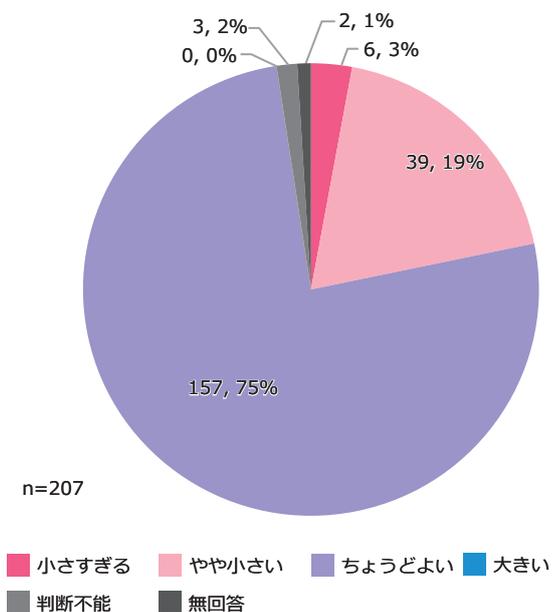


図 11 文字の大きさについての認識

解説の難易度

- ・設問 19 の回答を集計 (図 10)。
- ・「ちょうどよい」とした回答者が 60%。
- ・「やや難しい」とした回答者が 2 割強。

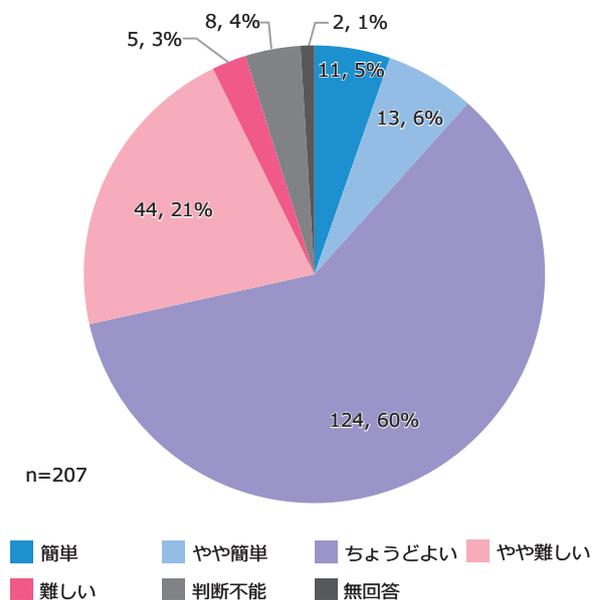


図 10 解説の難易度についての認識

- ・展示をスキップする利用者が一定数いる。ジグザグに進む順路がわかりにくく、一部の展示をとばしてしまう利用者があるとの事前情報あり。
- ・「少しまよった」または「とても迷った」とした回答者は 3 割弱。

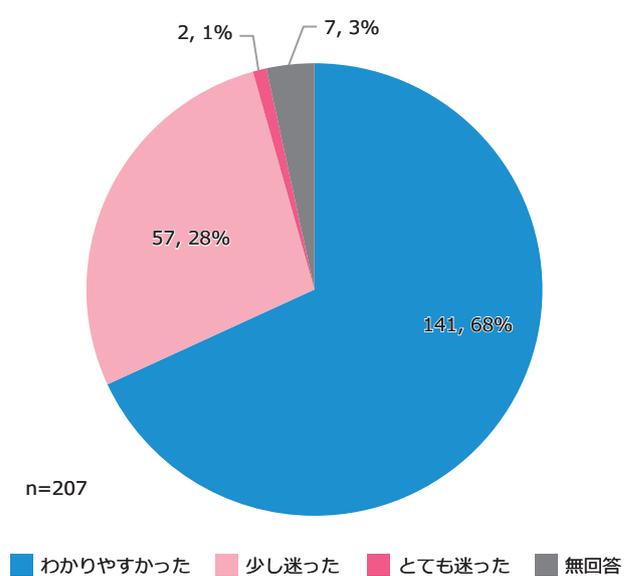


図 12 順路のわかりやすさについての認識

展示室の明るさ

- ・設問 22 の回答を集計 (図 13)。
- ・「やや暗い」の選択肢は意図的に省略した。
- ・「暗い」とした回答者は 3 分の 1。

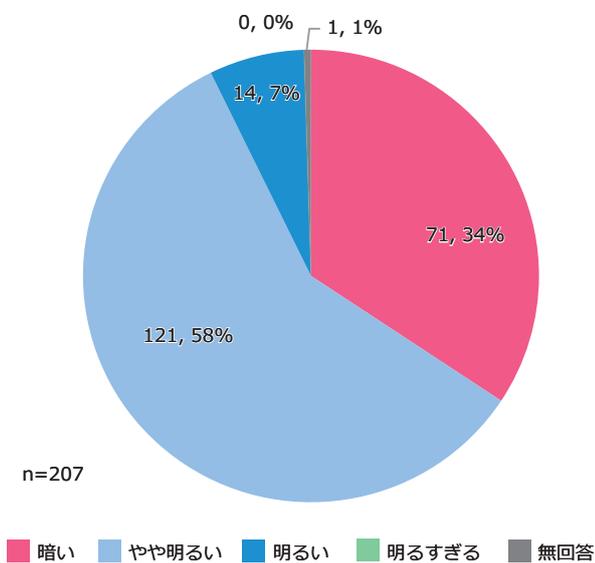


図 13 展示室の明るさについての認識

総合的な満足度

- ・設問 23 の回答を集計 (図 14)。
- ・「大変満足」または「満足」とした回答者が 9 割強。

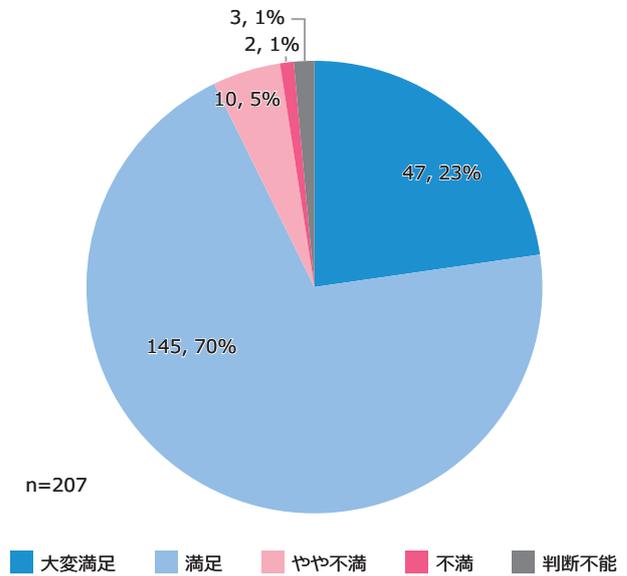


図 14 総合的な満足度

4. 分析結果③：既知の強み／課題の検証

既知の強み：常盤平団地復元展示の人気

- ・従来から人気のある展示と認識。
- 人気を追認するデータが得られた (表 5・図 6)。
- ・逆に団地 (近現代) 展示を利用しなかったのはどのような回答者か。
- ・近現代展示利用の有無を各設問とクロス集計した結果、年齢と相関することが明らかになった。
- ・年齢とクロス集計すると、60 代以上の年齢層では相対的に利用率が低くなる (表 6)。ただし、データは少ない。
- ・年齢を 60 歳未満／以上に区分して再集計すると差は顕著 (表 7)。統計的に有意な相関関係あり¹⁾。

表 6 年齢と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (1)

年齢	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
0-9	0	1	1	100.0
10-19	1	17	18	94.4
20-29	2	36	38	94.7
30-39	3	53	56	94.6
40-49	9	42	51	82.4
50-59	0	23	23	100.0
60-69	3	6	9	66.7
70-79	4	5	9	55.6
80-	1	1	2	50.0
総計	23	184	207	88.9

表 7 年齢と近現代展示利用の有無のクロス集計表 (2)

年齢	近現代展示の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
0-59	15	172	187	92.0
60-	8	12	20	60.4
総計	23	184	207	88.9

既知の強み：隣接する公園からの親子連れ

- ・リニューアルをめぐる議論の中で当館の強みとされた項目の精査（表 8）。
- ・公園から流入した利用者は利用目的として「たまたま通りかかった」を選択する。
- ・「親子連れである／ない」とクロス集計。
- ・親子連れでは「たまたま」が有意に多い。
- ・公園から親子連れの流入は一定程度ある。
- ・親子連れグループでは自家用車の利用が有意に多い（表 9）。
- ・自家用車で公園を利用し、偶発的に来館という行動パターンが推定される。

表 8 隣接する公園から流入する親子連れ

	利用目的「たまたま」ではない(人)	利用目的「たまたま」(人)	総計	たまたま (%)
親子連れではない	117	20	137	14.6
親子連れ	46	24	70	34.3
総計	163	44	207	21.3

表 9 親子連れグループの交通手段

	自家用車以外(人)	自家用車(人)	総計	たまたま (%)
親子連れではない	94	43	137	31.4
親子連れ	14	56	70	80.0
総計	108	99	207	47.8

既知の課題：展示室の暗さ

- ・常設展示室は暗く、リニューアル時にはより明るくすることが議論されてきた。
- 暗さを問題視する回答者は想定よりも少なかった（図 13）。
- ・暗さを感じるのはどのような利用者か？
- ・仮説：高齢者は暗く感じる。
- 小さな文字を読みづらい利用者にとっては暗く感じる。

- 明るさについての認識は、年齢および文字の大きさについての認識と相関するのではないか。
- ・いずれとも有意な相関関係は認められなかった（図 15・16）。
- 仮説は棄却される。

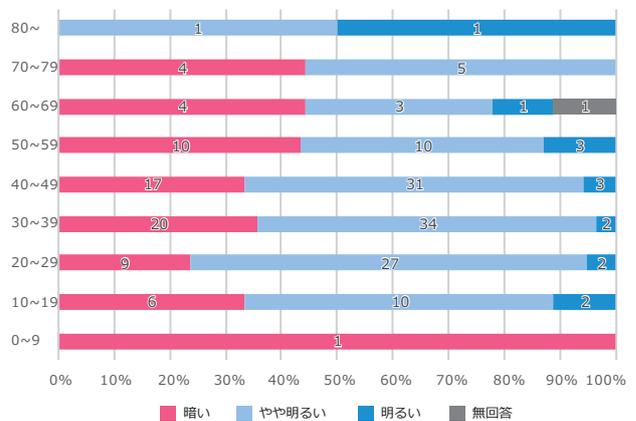


図 15 年齢と明るさについての認識との関係

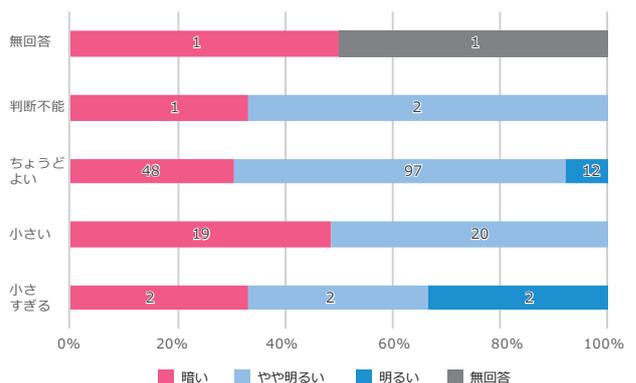


図 16 文字の大きさと明るさについての認識との関係

- ・明るさに対する認識を目的変数、他の全ての選択式回答を説明変数とする決定木分析²⁾を行い、図 17 の分類木を生成。
- ・解説のわかりやすさとの相関関係が示唆される。
- ・解説が「わかりにくい」「ややわかりにくい」とした群では「暗い」が相対的に多い。
- ・解説のわかりやすさと明るさについての認識との間には統計的に有意な相関関係が認められる³⁾（表 10・図 18）。

凡例

ノード内で優勢な選択肢
ノード内の各選択肢の割合
全体に対するノードの割合

ノードの色は優勢な選択肢
を示す。濃い色ほど優勢

■ 無回答 (未使用)
■ 暗い
■ やや明るい
■ 明るい (未使用)

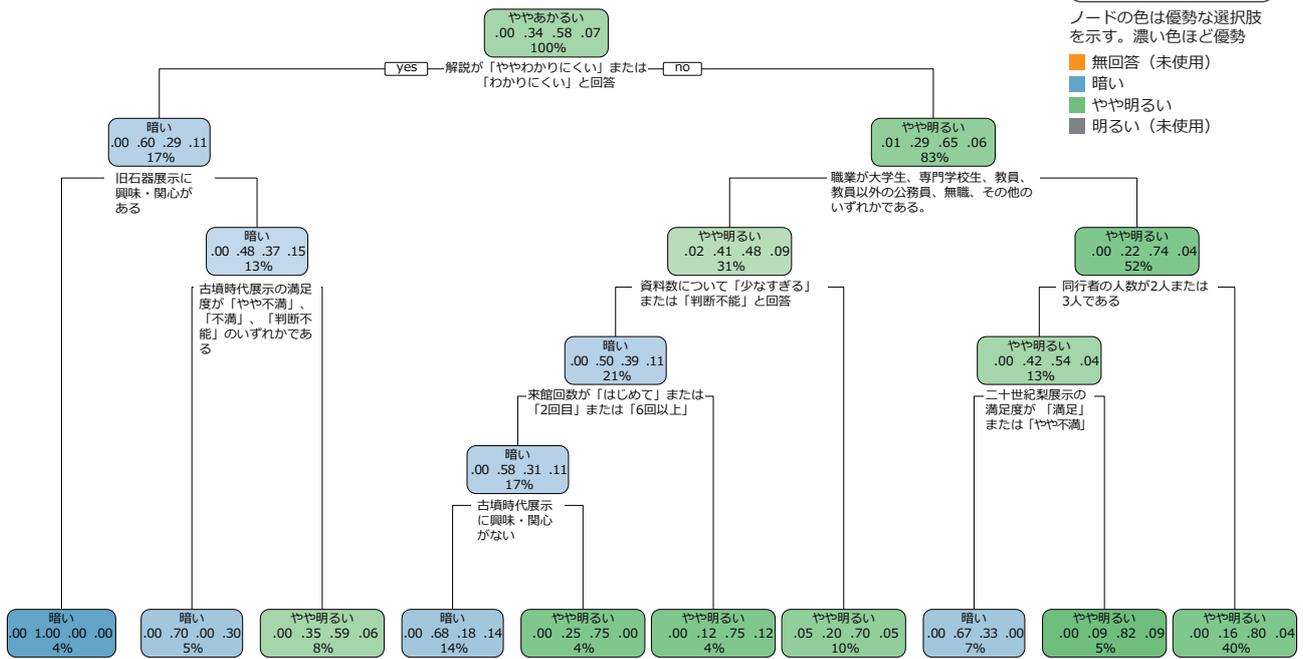


図 17 明るさについての認識を目的変数とする分類木

表 10 明るさについての認識と解説のわかりやすさとのクロス集計表

年齢	明るさに対する認識 (人)				総計
	暗い	やや明るい	明るい	無回答	
0-9	1	0	0	0	1
10-19	6	10	2	0	18
20-29	9	27	2	0	38
30-39	20	34	2	0	56
40-49	17	31	3	0	51
50-59	10	10	3	0	23
60-69	4	3	1	1	9
70-79	4	5	0	0	9
80-	0	1	1	0	2
総計	71	121	14	1	207

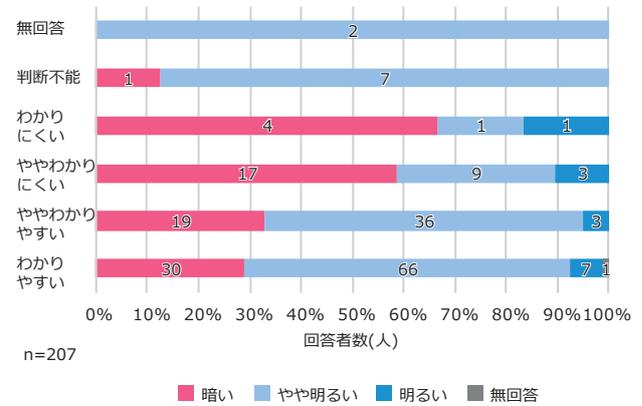


図 18 明るさについての認識と解説のわかりやすさとのクロス集計表

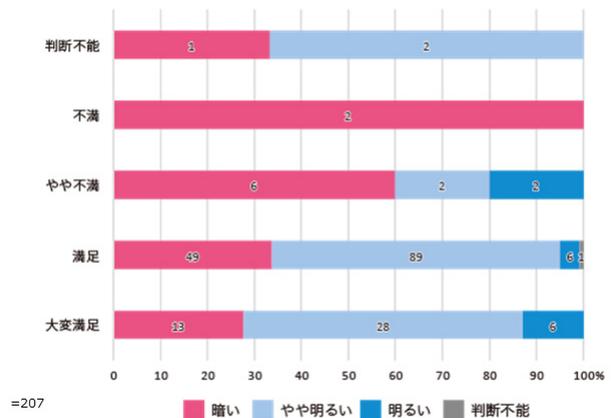


図 19 明るさと総合的な満足度のクロス集計表

明るさは総合的な満足度に影響

- ・明るさと総合的な満足度をクロス集計 (図 19)。
- ・満足度が「やや不満」または「不満」の回答者は「暗い」とする傾向。ただしデータは少ない。

5. 分析結果④：未知の強み／課題の抽出

リピーター

- ・回答者のおよそ3分の1が来館回数2回以上のリピーター（図4）。
- ・どのような利用者がリピーターになるのかを明らかにすることで、強み／課題の

可視化を試みる。

- ・来館回数を目的変数、他の全ての選択式回答を説明変数とする決定木分析を行い、図20の分類木を生成。
- ・居住地が松戸以外の群では「はじめて」の割合が顕著に大きい（表11・図21）。
- ・居住地と来館回数との間には統計的に有意な相関関係が認められる⁴⁾。

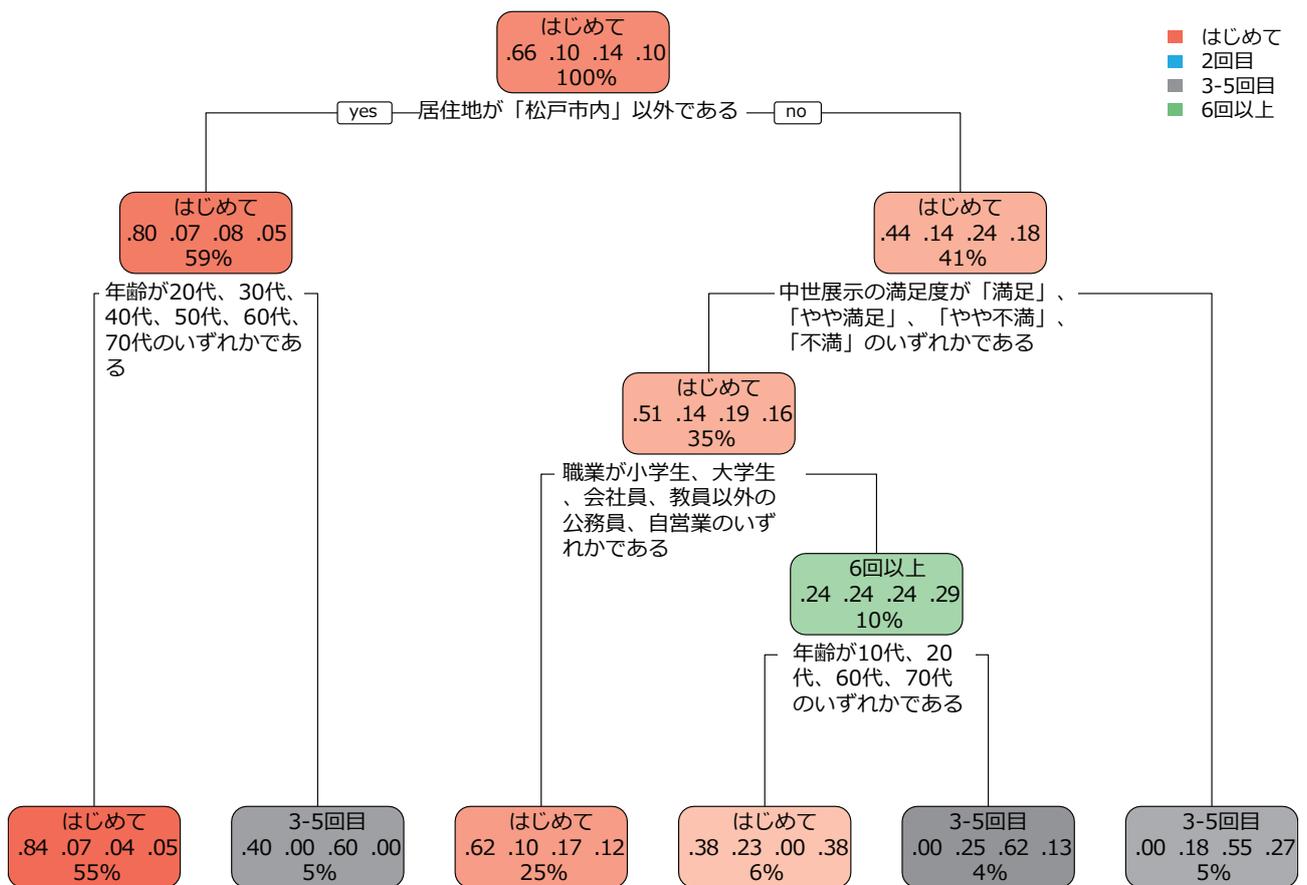


図20 来館回数を目的変数とする分類木

表11 来館回数と居住地のクロス集計表

居住地	明るさに対する認識 (人)				総計
	はじめて	2回目	3-5回目	6回以上	
松戸市内	37	12	20	15	84
松戸以外の千葉県	58	8	7	3	76
埼玉県	12	0	2	0	14
東京都	21	0	1	3	25
その他	5	0	0	0	5
無回答	3	0	0	0	3
総計	136	20	30	21	207

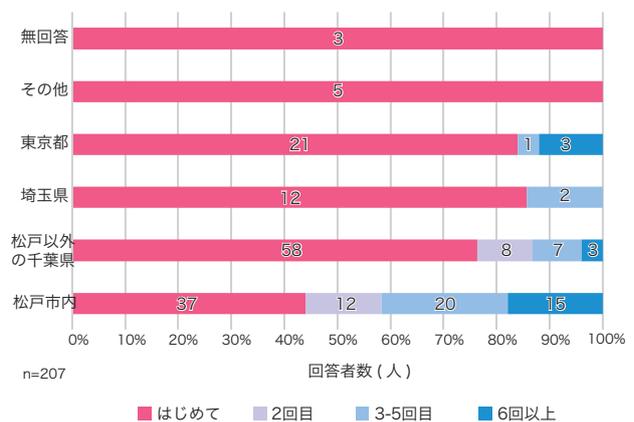


図21 居住地ごとの来館回数

・「松戸市内」以外の群では、一部の年齢層で「3-5回」来館している割合が大きい。ただしデータは少ない。

→年齢と相関する可能性はあるか？

→クロス集計すると、20～70代では年齢が上がるほど「はじめて」の来館者が減少する傾向（表12・図22）。統計的に有意な相関関係とはみなせない⁵⁾。

獅子舞シアターの利用率

・獅子舞シアターは最も利用率の低い展示である（表4）。なぜか？

・仮説：一定の時間を要する映像展示であるため、時間に余裕のある場合にしか利用されない。

→利用時間と相関するのでは？（表13）

→利用時間が長いほど獅子舞シアター利用率が高い傾向。ただし統計的に有意な相関関係とはみなせない⁶⁾。

・他の変数と相関する可能性を探るため、獅子舞シアター利用の有無を目的変数、他の全ての選択式回答を説明変数とする決定木分析を行い、図23の分類木を生成。

→二十世紀梨の展示を利用していない群では高頻度で獅子舞シアターを利用していない（表14）。統計的に有意差あり。

→さらに、2つの展示に近接する虚無僧の展示の利用とクロス集計すると、統計的に有意な相関関係が認められる（表15）。

表12 来館回数と年齢のクロス集計表

年齢	明るさに対する認識（人）				総計
	はじめて	2回目	3-5回目	6回以上	
0-9	0	0	1	0	1
10-19	7	1	6	4	18
20-29	32	3	1	2	38
30-39	39	4	8	5	56
40-49	33	6	9	3	51
50-59	16	3	2	2	23
60-69	5	2	0	2	9
70-79	4	1	2	2	9
80-	0	0	1	1	2
総計	136	20	30	21	207

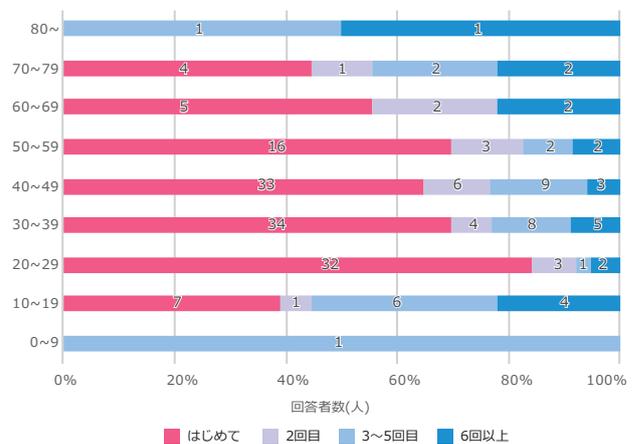


図22 年齢層ごとの来館回数

表13 獅子舞シアター利用の有無と利用時間とのクロス集計表

利用時間	三匹獅子舞の利用（人）		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
15分以下	5	7	12	58.3
15-30分	40	23	63	36.5
30-45分	31	30	61	49.2
45-50分	8	15	23	65.2
60分以上	19	29	48	60.4
総計	103	104	207	88.9

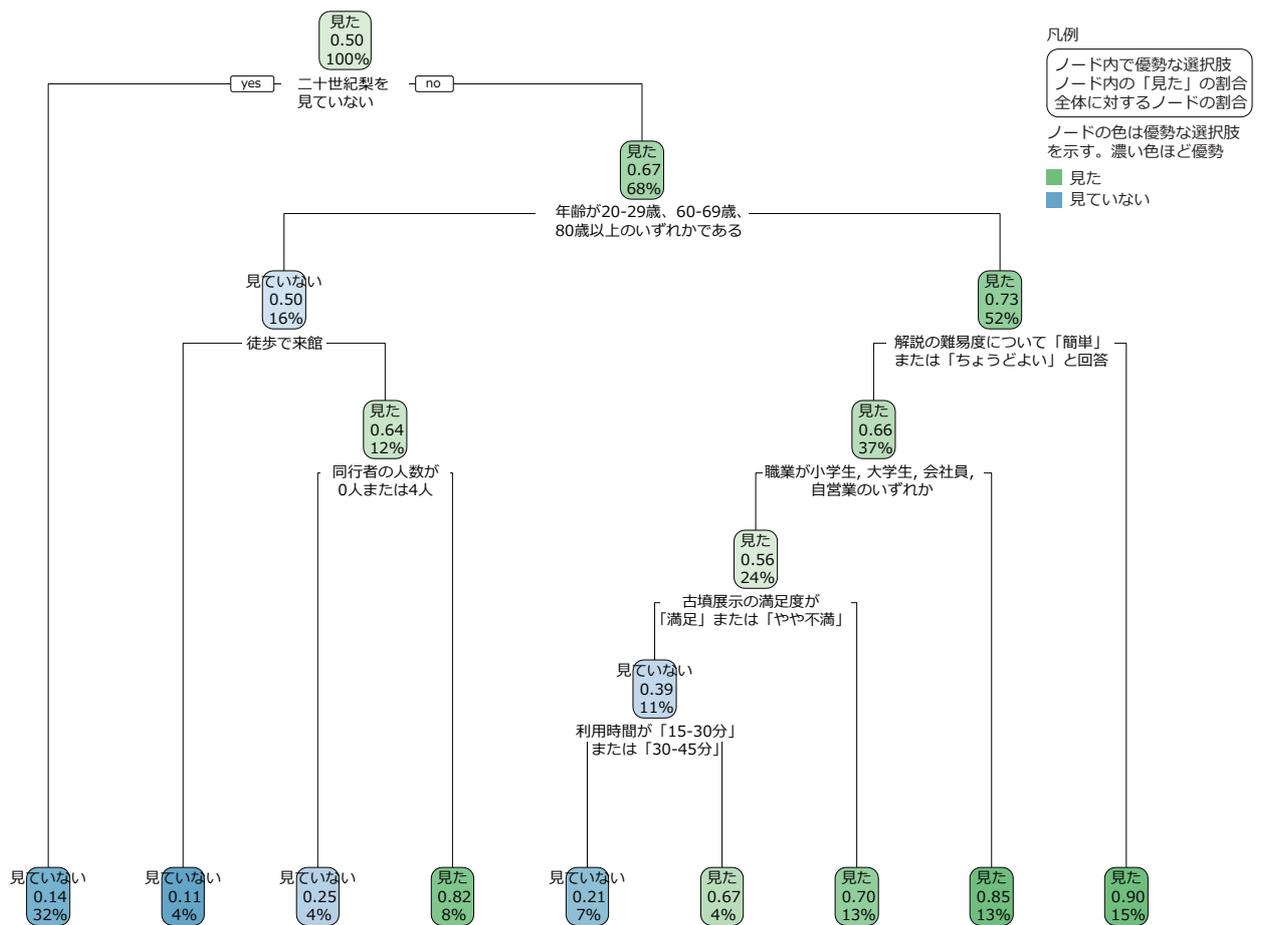


図 23 獅子舞シアター利用の有無を目的変数とする分類木

表 14 獅子舞シアターと二十世紀梨展示利用の有無のクロス集計表

二十世紀梨	三匹獅子舞の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	57	9	66	13.6
見た	46	95	141	67.4
総計	103	104	207	50.2

表 15 獅子舞シアターと虚無僧展示利用の有無のクロス集計表

虚無僧	三匹獅子舞の利用 (人)		総計	利用率 (%)
	見ていない	見た		
見ていない	45	12	57	21.1
見た	58	92	150	61.3
総計	103	104	207	50.2

6. 分析結果⑤：自由記述式回答の分析

印象に残った展示物や展示テーマ

- ・テキスト分析にはユーザーローカル社 AI テキストマイニング⁷⁾を使用。
- ・設問 24 の全回答を形態素解析し、出現頻度に基づいてワードクラウドを生成 (図 24)。

※出現頻度は単語の重要度により補正⁸⁾。

- ・出現頻度の高い名詞：常盤平団地、団地、**虚無僧**、展示、**小金城**
- ・出現頻度の高い形容詞：**解りにくい**、興味深い、懐かしい、細かい、面白い
- ・特徴的な単語について係り受け解析
- ・「虚無僧」に係る単語：珍しい、知る

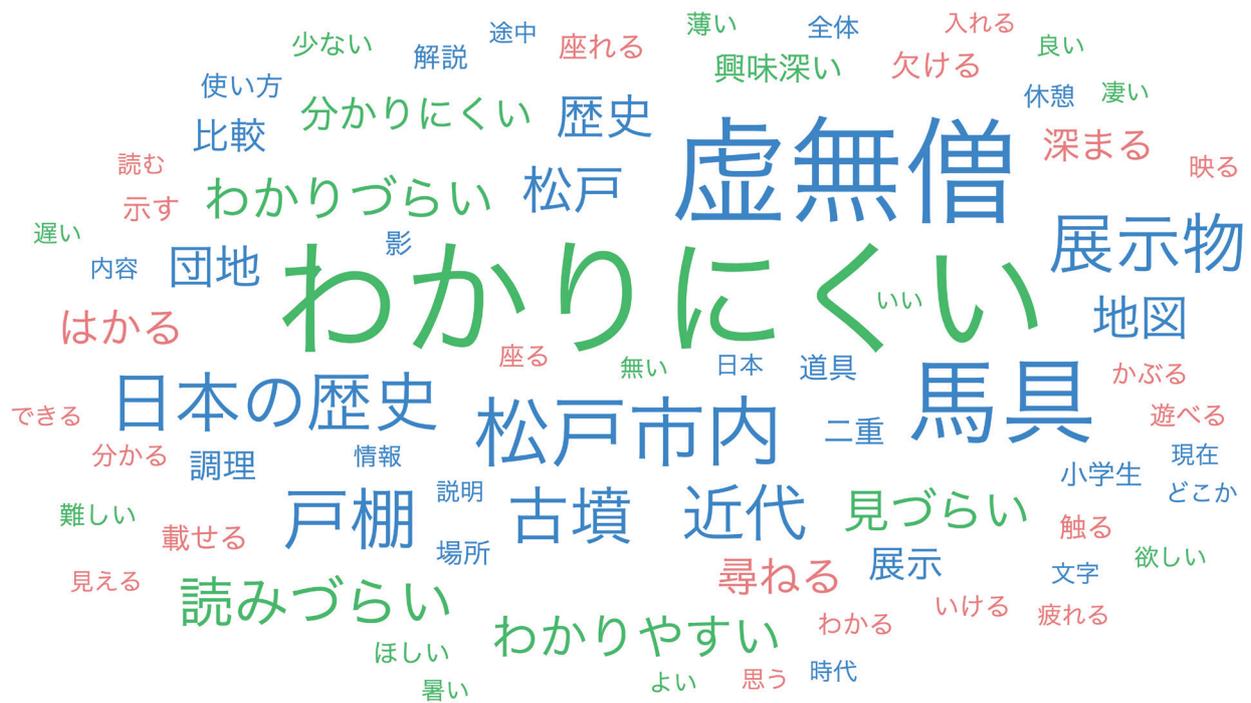


図 25 展示の問題点についての自由記述式回答から生成したワードクラウド

・「松戸宿」に係る単語：示す

江戸の頃の松戸宿で、どんな商いをして
いたか色分けし地図に示したものが
ありました。どの家屋がどの店なのか
分からず、今の街並みと比較したかつ
たので残念でした。

団地の展示物は、触ってもいいのか、
いけないのか、わかりにくかったです。
常盤平団地の出口がわかりづらかった。

・「わかりにくい」および類義語に係る単語：
場所、展示物、出口、区切り、併記、時
代

時代の区切りがわかりやすかったらよ
かった
読み仮名があると、小学生の子にもわ
かりやすいと思います
市内の該当箇所関連の現代地図を横に
併記してくれるとわかりやすくて助かる
時代がわかりにくい 読んで初めては
かる

・「読みづらい」、「見づらい」を含むテキ
スト

ガラスに影が映って字が見づらい
旧石器時代あたりの文字が照明で影に
なって、二重に見えて読みづらかった

7. 分析結果のまとめ

利用者像

- ・ 20代～40代が主体。
- ・ 30代～40代では少なくとも半数が親子連れ。
- ・ 松戸市内および近隣市町村からの来館が8割弱を占める。

強み

- ・ 近現代展示（常盤平団地）は人気が高い。ただし高齢者層の利用は相対的に低調。
- ・ 隣接する公園からの流入（特に親子連れグループ）が一定数見込める。
- ・ 3分の1がリピーター化し、周期的に利用している可能性。
- ・ 定量的には評価しにくいが関心を集める展示の存在（小金城、虚無僧など）。

課題

- ・ 3分の1の利用者は展示室が暗いと感じ、解説がわかりにくいと感じる傾向が強い。これは、満足度に影響。
- ・ 一定数の利用者は主題展示室の一部ないし全部をみていない。配置の問題か。
- ・ 特に獅子舞シアターは利用されていない。時間を要することも一因か。
- ・ 一部展示は説明が不十分。

8. 基本構想・基本計画策定における調査結果の活用

エリア戦略

- ・ 現在推進している施設間連携の意義を追求。

- ・ 施設間でデータを共有し、相互にメリットのある連携体制構築の一助とする。

ターゲット戦略

- ・ 現行案では親子連れを念頭に「家族で楽しめ集える博物館」という事業目標を掲げている。
- ・ 確かに親子連れグループは一定の割合を占めており、現行戦略の妥当性が確認された。
- ・ 一方で、多様な構成のグループが観察され、家族のあり方もまた、多様であった。
- ・ これら利用者の多様性に留意したターゲット戦略の重要性を指摘できる。

展示戦略：強みを活かす

- ・ 人気のある展示、関心を集める展示を把握することで、リニューアル時に展示内容を選択する手がかりとする。
- ・ 一定数のリピーターを獲得している。検討中の「可変的な展示」のように、リピーターにとってこそ価値のある展示を用意することは合理的。

展示戦略：強みを活かす

- ・ 一部の展示が利用されにくい実態。展示の内容よりむしろデザイン（配置、所要時間など）に起因する可能性。
- ・ 「暗い」を解消するためには単純に明るくすれば良いのではなく、「わかりやすい」をめざすべきである。

註

- 1) 本発表で2変数間に「有意な相関関係がある」という場合、ピアソンのカイ二乗検定により判断している。有意水準は0.05とする。検定の対象となる行列がカイ二乗検定に不適な期待度数を含む場合は(2,2)型の行列に換算した上でフィッシャーの正確確率検定により代用する。
- 2) 本発表の決定木分析では統計ソフトRにおいて、CARTアルゴリズムによる分析パッケージであるrpartを使用した。
- 3) 表8はカイ二乗検定に不適な期待度数を含むので、わかりやすさについての認識を「わかりにくい／ややわかりにくい」とそれ以外、明るさについての認識を「暗い」とそれ以外とに区分して再集計した行列でフィッシャーの正確確率検定を行ったところ、p値は有意水準以下となった。
- 4) 表9にはカイ二乗検定に不適な期待度数が含まれるため、居住地の回答を「松戸市内」とそれ以外とに区分して再集計した行列でカイ二乗検定を行ったところ、p値は有意水準以下となった。
- 5) 表10の行列でカイ二乗検定を行うとp値は有意水準以下となるが、不適な期待度数が含まれるため不正確な可能性がある。
- 6) 表11の行列でカイ二乗検定を行うとp値は0.05755で有意水準をわずかに上回る。
- 7) <https://textmining.userlocal.jp/> 2021年10月20日アクセス
- 8) 純粋な出現頻度を比較すると、どのテキストでも出現する単語が高くなる。例えば「思う」「言う」など。そのため、TF-IDF法という統計処理で普遍的な単語の重み付けを軽くし、テキストを特徴づける単語が相対的に上位になるよう補正している。

松戸市立博物館常設展示利用者調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

1. ご自身のことについて教えてください。

1. 年齢 該当するものを選んでください。

- 0～9歳
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80歳以上

2. あなたのご職業・校種

- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生
- 大学院生
- 専門学校生
- 会社員
- 教員
- 公務員・団体職員（教員以外）
- 研究職（人文系）
- 自営業
- 無職
- その他: _____

3. ご住所

- 松戸市内
- 松戸市以外の千葉県
- 埼玉県
- 東京都
- その他: _____

4. (3で「松戸市内」以外を選んだ方) お住まいの市区町村

回答を入力 _____

5. 本日はどのような目的でいらっしゃいましたか。(複数回答可)

- 常設展示を見るため
- 企画展・資料展を見るため
- 体験教室・講座・講演会に参加するため
- 復元竪穴住居を見るため
- プレイルーム、図書閲覧コーナーを利用するため
- 喫茶コーナーを利用するため
- たまたま通りかかった
- その他: _____

6. 誰と一緒にいらっしゃいましたか。(複数回答可)

- 家族
- 友人
- 学校の団体
- 職場の仲間
- ひとり
- その他: _____

7. 本日はどのような交通手段でいらっしゃいましたか。複数回答可

- 自動車
- 電車
- バス
- 自転車
- バイク
- 徒歩
- その他: _____

8. 松戸市立博物館にいらっしゃるのは何回目ですか。

- はじめて
- 2回目
- 3～5回目
- 6回以上

9. 設問8で2回目以上を選んだ方にうかがいます。前回来館されたのはいつですか。

- 1年以内
- 2～4年前
- 5～10年前
- 10年以上前
- わからない

10. 同行者の方の人数を教えてください。

- 1人
- 2人
- 3人
- 4人
- 5人以上

11. 同行者の方の続柄を教えてください。

回答を入力

12. 同行者の方の年齢・職業・校種を教えてください。

回答を入力

2/3 ページ

戻る

次へ

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

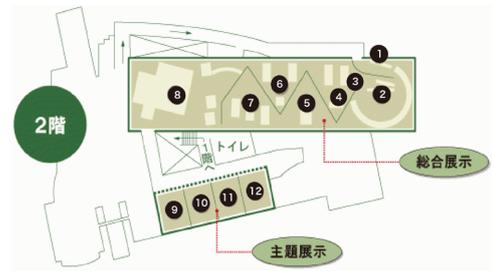
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

Google フォーム

II. 常設展示に対する評価

現在の常設展示の良い部分、悪い部分を確認するための調査です。当館の常設展示は、「総合展示（歴史展示）」と「主題展示」の2つがあり、下記のような配置になっています。配置図をみながらご回答ください。

常設展示配置図



- 1: 人類の登場 (旧石器)
- 2: 狩りと採集のムラ (縄文)
- 3: 稲作社会の誕生① (弥生)
- 4: 稲作社会の誕生② (古墳)
- 5: 下総国のはじまり (古代)
- 6: 武士と民衆 (中世)
- 7: 町場と村 (近世)
- 8: 都市へのあゆみ (近現代)
- 9: 考古学と科学の眼
- 10: 虚無僧寺一月寺
- 11: 二十世紀梨の誕生
- 12: 三匹獅子舞

13. どの展示をご覧になりましたか。ご覧になった展示をすべて選択してください。見ていないもの、素通りしたもの、ながめただけのものは選択しないでください

- 1: 人類の登場 (旧石器時代)
- 2: 狩りと採集のムラ (縄文時代)
- 3: 稲作社会の誕生① (弥生時代)
- 4: 稲作社会の誕生② (古墳時代)
- 5: 下総国のはじまり (古代)
- 6: 武士と民衆 (中世)
- 7: 町場と村 (近世)
- 8: 都市へのあゆみ (近現代)
- 9: 考古学と科学の眼
- 10: 虚無僧寺一月寺
- 11: 二十世紀梨の誕生
- 12: 三匹獅子舞

14. 設問13で選択したものの中で、特に興味・関心をもったものがあれば選択してください。(複数回答可)

- 1: 人類の登場 (旧石器時代)
- 2: 狩りと採集のムラ (縄文時代)
- 3: 稲作社会の誕生① (弥生時代)
- 4: 稲作社会の誕生② (古墳時代)
- 5: 下総国のはじまり (古代)
- 6: 武士と民衆 (中世)
- 7: 町場と村 (近世)
- 8: 都市へのあゆみ (近現代)
- 9: 考古学と科学の眼
- 10: 虚無僧寺一月寺
- 11: 二十世紀梨の誕生
- 12: 三匹獅子舞

15. 設問13で選択した展示について、満足度を教えてください。(複数回答可)

	満足	やや満足	やや不満	不満	判断不能
1: 人類の登場 (旧石器時代)	<input type="radio"/>				
2: 狩りと採集のムラ (縄文時代)	<input type="radio"/>				
3: 稲作社会の誕生① (弥生時代)	<input type="radio"/>				
4: 稲作社会の誕生② (古墳時代)	<input type="radio"/>				
5: 下総国のはじまり (古代)	<input type="radio"/>				
6: 武士と民衆 (中世)	<input type="radio"/>				
7: 町場と村 (近世)	<input type="radio"/>				
8: 都市へのあゆみ (近現代)	<input type="radio"/>				
9: 考古学と科学の眼	<input type="radio"/>				
10: 虚無僧寺一月寺	<input type="radio"/>				
11: 二十世紀梨の誕生	<input type="radio"/>				
12: 三匹獅子舞	<input type="radio"/>				

16. 展示室全体の観覧にどのくらい時間がかかりましたか。(ひとつ回答)

- 15分以下
- 15~30分
- 30~45分
- 45~60分
- 60分以上

17. 展示されている資料の数についてどのように感じますか。(ひとつ回答)

- 少なすぎる
- やや少ない
- やや多い
- 多すぎる
- 判断できない

18. パネル等の解説はわかりやすいものでしたか(ひとつ回答)

- わかりやすい
- ややわかりやすい
- ややわかりにくい
- わかりにくい
- 判断できない

19. 解説の内容は難しかったですか。(ひとつ回答)

- 簡単
- やや簡単
- ちょうどよい
- やや難しい
- 難しい
- 判断できない

20. 解説の文字の大きさはどのように感じましたか。(ひとつ回答)

- 小さすぎる
- やや小さい
- ちょうどよい
- 大きい
- 判断できない

21. 展示の順路はわかりやすかったですか。(ひとつ回答)

- わかりやすかった
- 少し迷った
- とても迷った

22. 展示室全体の明るさはどのように感じましたか。(ひとつ回答)

- 暗い
- やや明るい
- 明るい
- 明るすぎる

23. 展示全体の総合的な満足度はどのくらいですか。(ひとつ回答)

- 大変満足
- 満足
- やや不満
- 不満
- 判断できない

24. 展示室全体の中で、印象に残っている展示物や展示テーマはありましたか。ありましたら具体的に教えてください。なぜ印象に残っているのかも教えてください。

回答を入力

25. 展示室の中で、困ったこと、分からなかったことなどがありましたら具体的に教えてください。

回答を入力

26. その他、博物館に関するご意見・ご感想・ご要望等がありましたら、どんなことでも結構ですので、ご記入ください。

回答を入力

調査は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

3/3 ページ

戻る

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告 利用規約 プライバシーポリシー

Google フォーム